

【榿】○地―は草の名、われもか
 【榿】○あきこれの異名。
 【榿】○これの木の葉、錢に似たり、故にいふ。孔平仲詩「春盡一
 堆一狭路、曉陰花雨作三錢、○錢
 の名、榿葉錢を見よ。」

【榿】○江國鯉魚風
 【榿】○これの木の葉、錢に似たり、故にいふ。孔平仲詩「春盡一
 堆一狭路、曉陰花雨作三錢、○錢
 の名、榿葉錢を見よ。」

【榿】○榿の屬。鼠梓木。
 ねずみもち、榿の屬。鼠梓木。
 榿。

【榿】○榿の屬。鼠梓木。
 ねずみもち、榿の屬。鼠梓木。
 榿。

【榿】榿(木部八畫)に同じ。
 佛經の「嚴經」には特に此字を
 用ふ。
 【榿】佛經の名。白居易詩「人間
 此病治無藥、惟有二三四卷經」

【榿】(國字)
 かつら(桂)

【榿】(國字)
 こまひ(木舞)壁の下地、しの
 竹又は割竹を縦横に絡みつけ
 たるもの。

【榿】(國字)
 はにぎ、はんぎ(匣)水をつ
 ぎ入れる器、柄に水の通路あ
 り。

【榿】(國字)
 むろ、圓柏に似たる針葉喬
 木の一種、葉は柔く、老樹は青き
 實を結ぶ、材は水濕に堪ふ。杜
 松の屬。

【榿】(國字)
 ①ウツラン
 ②チン
 ③チツ
 ④やまなし(杜)⑤はしら(杜)

【榿】(木部八畫)に同じ。
 佛經の「嚴經」には特に此字を
 用ふ。
 【榿】佛經の名。白居易詩「人間
 此病治無藥、惟有二三四卷經」

【榿】(木部八畫)に同じ。
 佛經の「嚴經」には特に此字を
 用ふ。
 【榿】佛經の名。白居易詩「人間
 此病治無藥、惟有二三四卷經」

【榿】(木部八畫)に同じ。
 佛經の「嚴經」には特に此字を
 用ふ。
 【榿】佛經の名。白居易詩「人間
 此病治無藥、惟有二三四卷經」

【榿】(木部八畫)に同じ。
 佛經の「嚴經」には特に此字を
 用ふ。
 【榿】佛經の名。白居易詩「人間
 此病治無藥、惟有二三四卷經」

【榿】(木部八畫)に同じ。
 佛經の「嚴經」には特に此字を
 用ふ。
 【榿】佛經の名。白居易詩「人間
 此病治無藥、惟有二三四卷經」

【榿】(木部八畫)に同じ。
 佛經の「嚴經」には特に此字を
 用ふ。
 【榿】佛經の名。白居易詩「人間
 此病治無藥、惟有二三四卷經」

【榿】(木部八畫)に同じ。
 佛經の「嚴經」には特に此字を
 用ふ。
 【榿】佛經の名。白居易詩「人間
 此病治無藥、惟有二三四卷經」

【榿】(木部八畫)に同じ。
 佛經の「嚴經」には特に此字を
 用ふ。
 【榿】佛經の名。白居易詩「人間
 此病治無藥、惟有二三四卷經」

【榿】(木部八畫)に同じ。
 佛經の「嚴經」には特に此字を
 用ふ。
 【榿】佛經の名。白居易詩「人間
 此病治無藥、惟有二三四卷經」

【榿】(木部八畫)に同じ。
 佛經の「嚴經」には特に此字を
 用ふ。
 【榿】佛經の名。白居易詩「人間
 此病治無藥、惟有二三四卷經」

杜甫詩「濃淡樹一」榮潤。○さ
 かゆると、おとろへると。李賀詩
 「一」通轉急如「箭」盛衰。陸晉
 【榮枯】盛衰。○さかへると、おと
 ろへると。
 【榮潤】○さかえすむ。陸機文「擢
 自翠華、果榮一」
 【榮蔚】○さかえと、はづかしめ
 と。名譽と恥辱と。易、聚辭「言行、
 君子之福機、福機之發、一之主
 也」
 【榮悴】○さかえよきよかえると、や
 せつかれると。韓愈詩「何能辨一
 一、且欲分一賢愚」榮悴。
 【榮悴】○前條に同じ。
 【榮盛】○さかえてさかんなり。江淹
 文「都野宗三其一、一視聽驚其炎
 貴」
 【榮勢】○位高くしていきほひあり。
 南史、漁父傳「黃金白璧、重利也、願
 馬高聲、一也」
 【榮華】○光華あるよきいづみ。漢
 書、宣帝紀「食甘露、飲一」
 【榮華】○ほまれありて人にうらや
 まれる。李德裕文「恩禮轉深、諸蕃
 一」榮華。
 【榮祚】○さかんなるさいはひ。蔡邕

文「一統業、垂平來風」
 【榮達】○さかえあらはれる。允倉子
 「窮厄則以命自寬、一則以道自
 正」
 【榮秩】○高き官職、又其の扶持。又、
 名譽と位と。後漢書、陳龜傳「過受
 國恩、一榮一辱」榮秩。
 【榮寵】○君に愛せられてたよとき
 地位に在る。後漢書、李通傳「欲
 避一、一以病上書乞身」
 【榮潤】○さかえと、しほむと。新
 論「一有命、困遇有期」榮潤。
 【榮枯】○盛衰。
 【榮泰】○みだりに高き官職に在るに
 いふ。杜牧文「一既積、憂患深」
 【榮典】○榮譽ある褒賞、國家に功勞
 ある者に賜ふ所の勳位勳章など。
 【榮轉】○これまでよりは高き官職
 にすすむ。宋書、武帝紀「未幾一
 一者」榮進。
 【榮任】○光榮ある任務。吳志、魯肅
 傳、註「委以腹心、遂荷一」
 【榮班】○たよとき位、班は位。錢起
 詩「致君超一列、得道在」
 【榮品】○さかえてうつくし。傅休奕、
 桃賦「豈惟一之足、會」
 【榮品】○ほまれある官位。易林「萬
 國咸喜、子孫一」
 【榮敷】○草木がさかえひろがる。
 賈師泰、學圃吟「種藝皆一」
 【榮問】○榮名に同じ。問は問に同

じ、きこえ。李陵、答蘇武書、一
 休暢」令聞。
 【榮華】○人にほめられ、したはれる
 【魏志、杜恕傳】榮華。
 【榮名】○さかんなるほまれ。史、游
 俠傳「豈若一卑論、俗與世浮沈、
 而取一哉」古詩「一以爲、
 【榮名】○榮名を以て容貌の
 かざりとす。史、游俠傳「誰曰、人
 豈有既乎」
 【榮茂】○しげりさかんなり。漢
 書、宣帝紀「醴泉湧流、枯槁一、神
 光並見、咸受一禎祥」韓愈詩「大哉
 陽德盛、一復春」
 【榮養】○衣食等を十分に於て身體
 をやしなふ。晉書、趙至傳「吾小未
 能一、使老父不致勤苦」父
 に美服甘旨を進めて孝養すること
 能はず。
 【榮譽】○ほまれ。常建詩「一失三本
 眞」榮名。
 【榮螺】○さざえ、海産の貝の一種、
 産狀にして角のある殻と平たき蓋
 とを有す。榮螺。
 【榮落】○さかえと、さびれると。さ
 かえると、おちぶれると。宋之問、
 太平公主山池賦「春秋寒暑、今歲一
 一、林樹沼池、今日芳鮮」榮潤・榮
 枯。
 【榮覽】○人の文などを見るにいふ、
 榮は光榮とする。歐陽修、與吳給
 事書「覽一、得遂一」

【榮利】○榮達と利益と。後漢書、周
 盤傳「不」滑其生術と」
 【榮祿】○高き位。蔡邕、釋論「才美
 者荷一而榮、賜」榮祿。
 【榮】○いとまき、わく、絲をまきつ
 ける具。○鐘、磬などの樂器
 を懸ける具。
 【榿】カ
 ○ひさき(榿)古、拊、擗の刑
 具を作る。夏、榿。○榿、え
 のき、落葉喬木の一種、葉は緑
 に似て剛く、初夏淡緑色の花
 開き、粒状の小さき實を結ぶ。
 【榿】カ
 ○かる、からす(榿)凋、孟、
 梁惠王「苗則一矣」かわく(乾)
 ○かれたる(榿)○ひもの
 (乾魚)○つむ(積)
 【折榿】○榿は枯、枯木を
 くだき、落葉をばらふ。事、甚だ易
 きに喩ふ。淮南子「劉項與一、
 而定、若一折榿」
 【榿】○やせをりたるくびすち。
 莊列、樂寇「一黃臧者、商之所、
 也」
 【榿】○ひもの、榿は乾、曲禮「祭一

支へて物を起す具。
【榎杆】^ツ ○てこ、ばら。○物理学にて、支點・力點の位置作用によりて、物の抵抗力に打ち勝つしに用ふる榎の稱。

【穀】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【穀】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【穀】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀
【榎】^{コク} ^{コウ} 穀物の穀

【榜眼】^{ハツ} 進士の試即ち官吏登用試験に第二番の成績にて及第する。榜は掲示札、眼は二の隱語、眼は必ず二ある故。雲龍漫鈔「世目」狀元第二人「爲ニ」

【榜眼】^{ハツ} 罪人を拷問する具。唐書「敬羽傳」環以「ニ」

【榜眼】^{ハツ} たる札を立てて人に示す。掲示する。

【榜眼】^{ハツ} せんどう。張協「七命」

【榜眼】^{ハツ} 船をこぐかちの音。貫師「詩」

【榜眼】^{ハツ} 江心。蕭子雲「詩」

【榜眼】^{ハツ} かいにて船をこぐ。南史「永百年傳」

【榜眼】^{ハツ} 人を罰してむちうつ。楚もむち。司馬光詩「符移空浩浩」

【榜眼】^{ハツ} むちうつ。史「張耳傳」

【榜眼】^{ハツ} 罪人をむちうちて拷問する。史「李斯傳」

【槃】^{ハツ} 〇たらひ(承水盤)手に持つ小さな盥洗内則「少者奉」

【槃】^{ハツ} 水に注ぎ手をあらふ器。器。國語「奉」

【槃】^{ハツ} 黄帝の史官。孔甲の作りし銘「凡二十六篇を」

【槃】^{ハツ} 武安侯傳「田蚡有辯口」

【槃】^{ハツ} 賦者の歩む。賦一に賦に作る。史「平原君傳」

【槃】^{ハツ} 行及「」

【槃】^{ハツ} 兩足を前に出して箕の如くに坐す。莊「田子方」

【槃】^{ハツ} 武安侯傳「田蚡有辯口」

【槃】^{ハツ} 賦者の歩む。賦一に賦に作る。史「平原君傳」

【槃】^{ハツ} 行及「」

【槃】^{ハツ} 兩足を前に出して箕の如くに坐す。莊「田子方」

【樞】^{ハツ} 雄樹は枝立ちて花咲き、雌樹は枝垂れて葉の如き實を結ぶ。食用とし又油をしほるべし。樞。

【樞】^{ハツ} 木の端にのき(樞)ひさし、椽の端に在るもの。西京賦「椽樞文」

【樞】^{ハツ} ふしのき、山野に自生する。漆に似たる木。山海經「泰山多」

【樞】^{ハツ} 白膠木。將軍木。

【樞】^{ハツ} 日の出づる所にありといふ神木の名。扶桑の扶に通ず。説文「桑神木、日所出也」

【樞】^{ハツ} 神木の名。扶桑。淮南「冥朝發」

【樞】^{ハツ} 我國の異稱。日の出る處に在るが故。次條參看。

【樞】^{ハツ} 樞木は扶桑に同じ。淮南子「東方之樞、自碣石山」

【樞】^{ハツ} 東土之樞、東至日出之次、樞木之青土樹木之野」

【樞】^{ハツ} 音「ハツ」

【榕】^{ハツ} 〇榕は木葉花實、木瓜に酷似せる喬木、くわりん。木李、木梨、櫻桃。

【榕】^{ハツ} あかうの木一種、熱地に生ず。幹より枝を生じ、枝垂れて又根を生じ、漸次四周に蔓延す。

【榕】^{ハツ} あかうの木の葉。柳宗元詩「」

【榕】^{ハツ} あかうの木。南方草木狀「」

【榕】^{ハツ} 熱地に産する木の名。高さ四五丈、枝なく、葉は木質に生ず。實は房をなして葉中より出づ。〇枕「」

【榕】^{ハツ} 熱地に産する木の名。高さ四五丈、枝なく、葉は木質に生ず。實は房をなして葉中より出づ。〇枕「」

【榕】^{ハツ} 熱地に産する木の名。高さ四五丈、枝なく、葉は木質に生ず。實は房をなして葉中より出づ。〇枕「」

【榕】^{ハツ} 熱地に産する木の名。高さ四五丈、枝なく、葉は木質に生ず。實は房をなして葉中より出づ。〇枕「」

【榕】^{ハツ} 熱地に産する木の名。高さ四五丈、枝なく、葉は木質に生ず。實は房をなして葉中より出づ。〇枕「」

【榕】^{ハツ} 熱地に産する木の名。高さ四五丈、枝なく、葉は木質に生ず。實は房をなして葉中より出づ。〇枕「」

【樞】^{ハツ} 〇とかき、ますかき、ますにてはかる量を過不及なきやうにかきならず樞。〇はかる(量)〇ならず(平)〇おほむね、あらまし、ほほ「大」

【樞】^{ハツ} 〇みさを(節操)「節」

【樞】^{ハツ} 〇風度「風」

【樞】^{ハツ} 〇おほむね(趣致)「勝」

【樞】^{ハツ} 〇心に感動する。史「季布傳」

【樞】^{ハツ} 〇そそぐ。樞。〇

【樞】^{ハツ} 〇

【樞】^{ハツ} 〇

【樞】^{ハツ} 〇

【樞】^{ハツ} 〇

【樞】^{ハツ} 〇

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

【樞】^{ハツ} 樞は一切の義。

</

【樂川】○陝西長安の正南に在る樂川の別名。○唐の杜牧の號。杜牧「一」文集

【樂素小變】唐の白樂天の二妾の名。白居易詩「櫻桃樂素口、楊柳小蠻腰」

【樂中】○鳥かごのなかに、莊、逍遙遊、澤雉十步一啄、百步一飲、不期、音「子」

【樂】○とりかど。劉兼詩「鼻禽爭背戀、一」○轉じて自由を束縛するもの、官職などに喩ふ。北史、楊休之傳「此官清華、但煩劇、妨我賞適、眞是「一」

【樂】○まがき、かき。賈奉詩「窮居積雨、一」○學術文章などの門戸に喩ふ。史通「馮衍許劭不足、宛二班范之藩籬」

【標】○ちんかっ、熱地に産する香木。○蜜香樹。○圓しきみ、佛に供へる木の名。○標(國字)

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

【標】○かた(法式)てほん

○たかどの、重屋、二階たての建物「高一」「玉」「閣」「登」

【樓】後有長校美人「樓門」。曹伯啓詩「隣砧催薄暮、一辨深更」。

【樓】雨過晚涼生、一枕涼清。樓見のやぐらと城上のひめがきと。宋書、桂陽王休範傳「表治城池、修起一樓」。

【櫓】○こむら(木葦)○こかけ(樹陰)「林」「深」「下」○なみき(行路樹)「道」

【樓】たかどの。宋史、兵志、周庇「沃以泥漿」。後漢書、王純傳「殺妾十餘口、埋在二階」。

【樓】たかどの、二階家、子は助字。何德祥詩「繞塘一十三房」。呼「宋人」而告之。

【樓】たかどの、二階のうへ。史、平原君傳「美人居二階」。枝葉の笠の形をなせるまつ、かさまつ。抱朴子「一、僊臺松也」。

【櫓】は熱地に産する果樹の一、葉は楕圓形、春、小白花を開く、實は食用とし、又油を製す。三輔黃圖「漢武帝破南越得櫓百餘本」。

【樓】たかどの。西京雜記「一、參差五雲起」。

【樓】たかどのにて吹く笙の音。李洞詩「一聲歌夏玉」。野外煙初合、一花正飛。

【樓】たかどの。史、上官書、海旁氣、邑里難、鮫人。樓中「たかどののなか。羅隱詩

○からくり、しかけ「一機」。○石弓のばね(弩牙)○かなめ(主要)○たくみ(巧)○たくむ。○さし(兆候)事の起るきっかけ。○氣運の變化、萬物の自然の變化「天」莊、至樂「萬物皆出於」○をり、しほ「會」乘「○あふ(會)○こまやか、かすか(密)「一密」○いとぐち、はし(端緒)○あやふし(危)○星の名、北斗魁星の第三。○はたらき(活動)發動の由る所。大學、其「如此」○みち(道理)○はた、はたお

【樓】たかどののつき。白居易詩「一一樓樓早、波風裏最新」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

【樓】たかどののな。羅隱詩「樓中」。

檣は檣。韓非、外儲「楚人有賣其珠於鄭者、爲木蘭之櫃、薰桂椒之櫃、綴以珠玉、飾以玫瑰、輯以翡翠、鄭人買其櫃、而還其珠、此可謂善賣其櫃矣、未可謂善賣其珠也」

【櫓】
○ライ
○ライ
【櫓】
○ライ
○ライ

○さかだる、雲雷の形を彫りつけたる酒樽。○雷。○劍の頭の飾、劍の頭を玉にて飾り、其の上に山形の木ほりの飾をはめしもの。漢書、焦不疑傳「帶一具劍」

【櫓】
○ライ
○ライ

○機は木の名。機(木部九畫)を見よ。○くりん(花欄)は熱地に産する喬木の、材堅く紫紅色にして、美しくしき花文あり、器具を造るに良し。華一又、果樹の一、ほけに似、秋、黄色にして酸味ある果を結ぶ。○模機

【機】
○ライ
○ライ

○ふち(藤)○かつら(葛)の木の、落葉喬木の、樹は栗に似、樹皮あらく、われ目を生じ、秋、圓き果即ちどんぐりを結ぶ、材は薪炭と爲すに適す。○やくにたたぬ木(散木)不才無用の人(散人)に喩ふ。楞(木部十一畫)を見よ。○檣。○檣に通ず、ならず、こする、かきならず。○陽は縣名、雍州に在り。

【檣】
○レキ
○ヤク

○くぬぎ(桐)○どんぐり(栗)の木の、落葉喬木の、樹は栗に似、樹皮あらく、われ目を生じ、秋、圓き果即ちどんぐりを結ぶ、材は薪炭と爲すに適す。○やくにたたぬ木(散木)不才無用の人(散人)に喩ふ。楞(木部十一畫)を見よ。○檣。○檣に通ず、ならず、こする、かきならず。○陽は縣名、雍州に在り。

【檣】
○レキ
○ヤク

○へやのまど、部屋の窓隔れんじまど「籬」班婕妤賦「房」虚令風冷冷「〇」をり(檻)獸を容れて養ふかこひ。

【籬】
○ロウ

【櫓】
○ライ
○ライ

【櫓】
○ライ
○ライ

○馬屋のねだ(櫓)魏武帝詩「老驥伏櫓、志在千里」○馬のかひをけ(馬槽)「槽」○くぬぎ、どんぐりのき、櫓(木部十五畫)を參看。○かひこのす(蠶薄)○櫓はゆびひしぎ、十指をならべ、木にて縛る刑具。

【櫓】
○ライ
○ライ

【櫓】
○ライ
○ライ

○柱の上のますがた(斗拱)「榑」○びは(枇杷)「甘」盧に通ず。○盧橘。○はぜ、はじ「黄」落葉喬木の、樹は漆に似、葉は羽状、霜を経て紅葉す、花は黄綠色小形、實は扁平にしてむらがり結ぶ、蠟を製するに用ふ。

【榑】
○キヨ

いほた、女貞に似たる木、幹より油又は蠟を取る。○水楸樹。

【楸】
○ラフ

○おほだて(大盾)大形の楸「楸」○ものみやぐら(城上望樓)屋根のなき者「望」楸「〇」ろ。船を進ましむる具。船尾に在るは楸、旁に在るは「柔」楸「楸」楸。○やぐら。城の壁や門の上に設けたるもの。○木を組み上げて高く構へたる棧敷「太鼓」○炬燵の上に覆ふわ

【楸】
○ラフ

○のき「飛」楸。○みぎり(初)○わたどの、ほそどの(廊)楚辭「曲屋歩」歩は歩

【楸】
○ラフ

けやき(楓)落葉喬木の、高さ十數丈に至る、材は甚だ堅く、美にして建築用又は器具に製する等用途廣し(柜柳)「柳」

【楸】
○ラフ

【楸】
○ラフ

○たるき(椽)一解に壁の柱。○ますがた、柱の上に立てる方形の木(斗拱)「榑」

【榑】
○ラフ

して通ふべき廊に歩廊。いぬるんじ「楸」

【楸】
○クイ

○ひこばえ、木のきりかぶより生ずる芽。○葉楸。○一旦絶えたる物事の復ひ發生するもの。

【楸】
○クイ

いちひ、かし、いちひかし、常緑喬木の、葉は栗に似、春、花を著け、椎の實に似たる果を結ぶ、材堅く用途多し。

【楸】
○クイ

くりのあかりまじ。

【權】 權(木部二十一畫)の俗字。

【權】 レイ 又、權に作る

〇れんじ、窓にとりつけるか、れんじの(格)

【權】 れんじの(格) 何晏景福殿賦「一邱張」

十八畫

【權】 ク 〇さらへ、くまで(四齒杷)〇

わだかまる、木の根の盤錯せる貌。淮南、説林「木大則根」

【權】 ゴン 先

〇おもり、はかりのおもり(稱錘)〇はかり、物の重量をはかる具。論、堯曰「謹」〇め

かた、輕重の標準。〇はかりごと(謀計)臨機應變のはかりごと

と。經の對「一謀」孟、離婁「嫂溺援之以手也」〇たひらか(平)物事のつりあひ「一衡」〇

いきほひ、ちから「一力」〇「柄」〇「專」〇はかる、目方をはかる。孟、梁惠王「一然後知輕

重〇かり(假設)〇そへ、正に對する副。〇かぬる(兼)〇

官〇かりそめ(苟且)〇一興ははじめ(始)〇しばらく。〇

のろし(烽火)〇通す。〇ほ(頰)〇頰に通す。

【權】 權、計、圖、量、度、稱、測、料、付、揣、衡等の別は計(言部)二畫の條を見よ。

【權】 權、威、勢と威勢と。〇國最高至善の標準となるもの、泰斗の義。

【權】 權、力ありて地位ある人。晉書、周札周建傳「始見疑于朝廷、終獲于天子」〇權門右族。

【權】 權、力ある樞要の地位。南史、徐湛之傳「江湛爲吏部尙書、與湛之、竝居一門、世謂「江徐」

【權】 權、力あるいへがら。南史、袁昂傳「依事効奏、不憚一、當時號爲「正直」〇勢、權門。

【權】 權、勢ありて君の寵をほしいままにする者。唐書、楊汝士傳「文通一、四方賄賂滿門」〇權寵。

【權】 權、〇はかりのおもりと、さをと。申す「君必有二法正義、若懸二一、以稱輕重」〇以「一羣臣、也」〇轉じて、つりあひの義とす。

【權】 權、たぐみたるはかりごと。漢書、禮樂志「志、個、儻、精」〇「詭計」。

【權】 權、場合に応じて、適宜の處置

をなす。後漢書、西羌傳「計日用之

【權】 權、世之遠略」

【權】 權、力ありて位高し。又、其の貴人。齊書「三世不事一、韓愈、柳子厚墓誌銘「以不能、一失御史」

【權】 權、勢力ありて王者に近侍する者。唐書、高適傳「一側目」

【權】 權、〇權力ある官吏。〇かりに他の官を兼ねる、權攝の官。〇國々其の時限りの官吏。又正官に對する副の官吏。

【權】 權、中軍は大將ありて謀を制するを權といひ、後軍は殿をなしてつよきを助といふ。左、宣十二「前矛慮無、中權、後勁」

【權】 權、いつはりのはかりごと、諺は詐。漢書、王吉傳「各取一切、一自在」

【權】 權、法令又は約束によりて其の人にまかせし仕事の範圍。

【權】 權、はかりつはる。梔杵子「高一、而下二道德」

【權】 權、權謀を以てあらそふ。謝靈運文「懷元王之冲粹、丁二戰國之一」

【權】 權、計略を以て人を使ふ。史、魯連傳「一其士、使使其民」

【權】 權、いきほひあるけらい。

【權】 權、首謀者。史、吳王濞傳「毋爲一、將受其害」

【權】 權、權謀術數の略。宋史、徐誼

十九畫

【權】 〇つゝ(杖)〇あつむ、あつま(積聚)〇ほこのえ、矛戟の柄。

【權】 〇やまなし(榎木)〇杪(梢)は崑崙山に生ずる木の名。〇娑羅。

【權】 〇あち(棟)〇ひぢぎ、ますがた(曲榦)〇圓一はまどか

〇一は體の瘠せたる貌。權の假字。〇權一は竹の叢なり生じて長き貌。

【權】 〇ひぢぎ、景福殿賦「一天權而交結」

【權】 〇棟の異名。

【權】 〇やせたる貌。詩、檜風「隸人

〇一、〇

【權】 〇ひぢぎ、柱上のますがた。左思、吳都賦「一疊施」

【權】 〇通じて麗

〇はり、うつばり(梁)〇「梁」

廿一畫

【權】 權(木部二十一畫)の譌字。

【權】 〇斧のえ(斤柄)〇すき(勳)土を掘りおこす農具。〇斷。

【權】 〇刀のつか(刀柄)〇すべて物の柄をいふ。

【權】 〇刀のつか。丹鉛錄「得此

〇一

【權】 〇木蘭。

【權】 〇

【權】 〇

【權】 〇

【權】 〇

【權】 〇

【權】 〇

【歌樂】カク よろこびと、さかえと。章應物詩「賢恩共ニ一ニ」歌樂榮華。

【歌】カク よろこびのまじり。傳休奕詩「巧笑露ニ一」張華詩「巧笑媚一」聯娟眸與眉。

【歌實】カク 喜ばしき酒も。晉書、王羲之傳「欲與三親知一時共一」。

【消歌】カク よろこびの心をたすける。唐書、三宗諸子傳「賜金帛一」。

【歌恩】カク 世謂天子友悌、古無有者。

【歌】カク 骨肉の一、全三怡怡之篤義。

【歌呀】カク よろこびてよぶ。韓愈、元和聖德詩「踴躍一、失喜噉歌」。

【歌暇】カク うれしきいとま。陸倕詩「追惟曠昔時、朝府多一」。

【歌諧】カク よろこびやはらぐ。顏氏家訓「竟日一、詞人滿席」。

【歌和】カク 和。

【歌駭】カク よろこびおどろく。唐書、吳融傳「左右一」。

【歌康】カク よろこびて、やすんじたのしむ。東京賦「君臣一、具醉熙熙」。

【歌客】カク 〇よき賓客。易林「喜樂踴躍、來迎一」。

【歌御】カク よろこびてなれしたしむ。步非烟傳「永奉一」。

【歌感】カク よろこびて心をうかす。涼武昭王文「一」。

【歌喜】カク よろこぶ。戰國策「武安君曰、秦克趙軍、秦人一」。

【歌喜天】カク 〇もと悪神なりしが、佛の教をうけて善神となり、人に幸福平和を與へるといふ神。金銀にて男女淫褻の状を鑄るもの。

【歌喜佛】カク 大聖天。

【歌請】カク 〇こび戯れる。韓愈詩「驚不、忍幸動、何由恣一」。

【歌會】カク たのしきつどひ。杜甫詩「人生一、豈有極」。

【歌白】カク 〇不隔句。

【歌迎】カク 〇こびむかへる。陶潛「歸去來辭」。

【歌歡】カク 〇こびらやまふ。傳咸文「竭一、于膝下」。

【歌愜】カク 心によるこび満足する。愜は心にかなふ。蘇頌詩「一、更傷」。

【歌眷】カク 〇こびてかへりみる。楓窗小牖「九重一、六宮遙處」。

【歌呼】カク 〇こびて聲をあげる。元稹文「萬姓一、四方來賀」。

【歌娛】カク 〇こびたのしむ。白居易詩「只添新愜望、豈復舊一」。

【歌語】カク 〇こびたのしむ。又、よき縁組。曹植賦「悲良媒之不、願懼一」。

【歌心】カク 〇こびこころ。孝經「得百姓之、以事其先君」。

【歌情】カク 〇こびこころ。神女賦「一、未接、將辭而去」。

【歌悚】カク 〇こびの心と、おそれる心と。李贄文「銘厚遲一」。

【歌醉】カク 〇こびをふ。列仙傳「劉商東游、廣陵、逢一、道士賣藥、挈上酒樓、劇談一」。

【歌笑】カク 〇こびわらふ。魏志、武帝紀「拊手一、喜笑」。

【歌楚】カク 〇こびと、かなしみと。周興嗣詩「一、亦殊音」。

【歌術】カク 〇こびたのしむ。何遜詩「道術既爲、一、苦未、行」。

【歌待】カク 〇こびもてなす。張祐詩「笑歌情不盡、一、禮無、欣待」。

【歌泰】カク 〇こびやすらか。宋書「朝野一、具瞻允康」。

【歌適】カク 〇こびて心にかなふ。白居易詩「先務一身安閑、次要一」。

【歌天喜地】カク 天に歡び地に喜ぶ。よろこびの十分に満つる義。

【歌騰】カク 〇こびてをどりあがる。玉海「踏軍一、觀者山峙」。

【歌伯】カク 酒の異名。易林「酒爲一、除憂來一」。

【歌服】カク 〇こびたがふ。後漢書「羊續傳、百姓一、悅服」。

【歌慕】カク 〇こびたふ。傳休奕詩「羣下仰清風、海內同一」。

【歌躍】カク 〇こびておどる。喜びの甚だしき義。易林「舞躍一」。

【歌愉】カク 〇こび。韓愈文「一、之辭難、工、怡愉、欣愉」。

【歌樂】カク 〇こびたのしむ。孟、梁惠王「民一、之」。

【歌樂極今哀情多】カク 〇こびたのしみが至り極ると、かなしみの情を生ずる義。漢武帝、秋風辭。

【歌和】カク 〇こびやはらぐ。馮衍文「思厚一、之節、樂定金石之固」。

止部

【止】カク 〇こび、とめる(留)論、微子「一、子路宿」とどまる。〇やむ(已)論、子罕「一、吾一、也、進吾進也」やすむ(休息)〇心の安んずる所。心をおちつける。大學「在」於至善」〇をる(處)〇し(か)靜(動)かぬ、靜まる。禮、玉藻「口容一」〇いたる(至)臨(む)〇ね、ねもと(根幹)〇あし(足)漢書「當斬左一者、答五百」〇とらはれる。とりにこにする。左、僖十五「駘秦伯將」〇〇師營」行く。いくさ(ゆ)〇かたちづくり、たちふるまひ「容一」〇あつまる。あつむ(集)〇せず、おこなはず、爲さず。〇さしとめる、禁ず、制す「禁一」〇「中一」停一「諫一」一「謗一」〇をはる(畢)〇つく(盡)〇やどる(宿)〇〇のり(則)〇枕を鼓つ椎〇〇ただ、ただに(音)わづかに。莊、天運「一、可以一宿以不可久處」〇無意味の助字。詩、周頌「百室盈一、婦子寧一」。

【止】カク 〇こび、とめる(留)論、微子「一、子路宿」とどまる。〇やむ(已)論、子罕「一、吾一、也、進吾進也」やすむ(休息)〇心の安んずる所。心をおちつける。大學「在」於至善」〇をる(處)〇し(か)靜(動)かぬ、靜まる。禮、玉藻「口容一」〇いたる(至)臨(む)〇ね、ねもと(根幹)〇あし(足)漢書「當斬左一者、答五百」〇とらはれる。とりにこにする。左、僖十五「駘秦伯將」〇〇師營」行く。いくさ(ゆ)〇かたちづくり、たちふるまひ「容一」〇あつまる。あつむ(集)〇せず、おこなはず、爲さず。〇さしとめる、禁ず、制す「禁一」〇「中一」停一「諫一」一「謗一」〇をはる(畢)〇つく(盡)〇やどる(宿)〇〇のり(則)〇枕を鼓つ椎〇〇ただ、ただに(音)わづかに。莊、天運「一、可以一宿以不可久處」〇無意味の助字。詩、周頌「百室盈一、婦子寧一」。

【止】カク 〇こび、とめる(留)論、微子「一、子路宿」とどまる。〇やむ(已)論、子罕「一、吾一、也、進吾進也」やすむ(休息)〇心の安んずる所。心をおちつける。大學「在」於至善」〇をる(處)〇し(か)靜(動)かぬ、靜まる。禮、玉藻「口容一」〇いたる(至)臨(む)〇ね、ねもと(根幹)〇あし(足)漢書「當斬左一者、答五百」〇とらはれる。とりにこにする。左、僖十五「駘秦伯將」〇〇師營」行く。いくさ(ゆ)〇かたちづくり、たちふるまひ「容一」〇あつまる。あつむ(集)〇せず、おこなはず、爲さず。〇さしとめる、禁ず、制す「禁一」〇「中一」停一「諫一」一「謗一」〇をはる(畢)〇つく(盡)〇やどる(宿)〇〇のり(則)〇枕を鼓つ椎〇〇ただ、ただに(音)わづかに。莊、天運「一、可以一宿以不可久處」〇無意味の助字。詩、周頌「百室盈一、婦子寧一」。

【止】カク 〇こび、とめる(留)論、微子「一、子路宿」とどまる。〇やむ(已)論、子罕「一、吾一、也、進吾進也」やすむ(休息)〇心の安んずる所。心をおちつける。大學「在」於至善」〇をる(處)〇し(か)靜(動)かぬ、靜まる。禮、玉藻「口容一」〇いたる(至)臨(む)〇ね、ねもと(根幹)〇あし(足)漢書「當斬左一者、答五百」〇とらはれる。とりにこにする。左、僖十五「駘秦伯將」〇〇師營」行く。いくさ(ゆ)〇かたちづくり、たちふるまひ「容一」〇あつまる。あつむ(集)〇せず、おこなはず、爲さず。〇さしとめる、禁ず、制す「禁一」〇「中一」停一「諫一」一「謗一」〇をはる(畢)〇つく(盡)〇やどる(宿)〇〇のり(則)〇枕を鼓つ椎〇〇ただ、ただに(音)わづかに。莊、天運「一、可以一宿以不可久處」〇無意味の助字。詩、周頌「百室盈一、婦子寧一」。

曰「其衣冠」○事の是非を問ひたす。論、學而「就有道而一」○よし(是)「是」○まさしに、まさしく、あたかも(恰)ちやうど。論、述而「唯弟子不能及也」○そなはる(備)○たる(足)○をさ、かしら、役人のかしら(官長)禮、王制「史以獄成」○主たるもの。副の對「使」○官位の上なるもの。從の對「一品」○罪を治める。〇つね(常)孟、滕文公「以順爲一者、妾婦之道也」○ただしくして賢き人「先」○ほんもの、表向のもの「妻」○いましめ(訓戒)○あきらかにす。〇わかまふ(辨)○ただしき道、ただしき事。〇のり(標準)○なか、まなか(中極)〇つかさ(主任)〇まつりごと、政に通ず。〇あらかじめ期す、あてにする。孟、公孫丑「必有事焉而勿」○歳の第一月「一朔」一説に去聲敬語に入る。〇射侯の中、弓の的「中の星」詩、齊風「終日射侯、不出」○みつぎ、征に通ず。〇室の明かなる方に向ふ處。

同訓異義。正、規、繩、糾、格、匡、董、訂、賀。〇正は邪の反、ゆがめるを、眞直にたすなり。論語「就有道而正焉」○規は以法正、人曰規と註す、ぶんまはしにて、ゆがみを直す義なり。小學「德業相勸、過失相規」○繩は繩にてゆがみを正す義。書經「繩愆糾謬、格其非心」○糾はあやまちを擧げて、厳しくたすなり。〇格は正なり。法度、格式に合ふやうに正すなり。書經「格其非心」○匡は救ひ正すなり。孝經「君子事君、匡救其惡」○董は督正なり、多くの人を勸したすなり。董、役は、善請奉行をすることなり。〇訂は文字の誤をたす定むる義。訂正、訂疑の如し。〇賀は問ひてたす義。中庸「質諸鬼神、毋疑」○訂、方、適、祇、多、鼎、將。〇正はまさしくと譯す、正面の義、偏の反なり。花正開と譯す、花が十分の見頃になりたるなり。政に作る、同じ。〇方は方位の方にて、其の方に向ふ義、まさかりと譯す、花方開といへば、花が今をさかりと開けるなり、又方今と熟し、さしあつてと譯す。左傳「水潦方降、疾疢方起」○適は適當と熟し、てつと譯す、的に作る、同じ。漢書「陛下所以爲愼夫人、適所以爲之也」○た、たまたまとも訓む。周本紀「適

會山林多人居」○祇は適也と註す、適と同用の字面なり。揚子法言「甚苦也、祇其所以爲樂也、歎」○祇に作る、同じ。〇多は祇と同じ、論語に「多見其不知量也」とありて、釋文に、多或は祇に作るあり。〇鼎は方に同じ。漢書「天子春秋鼎盛」○將は既の反なり、欲然也と註す、まさきに何せんとなすとかへり訓む。論語「將入門、策其馬、曰非三敢後也、馬不遇也」○非三敢後也、馬不遇也。〇位、滕文公「居天下之廣居、立天下之正行、行天下之大道」○正意、行、たすきこころ。說苑「檢其邪心、守其正心」○正心、左傳「恤其患、而補其闕、正其違、而治其亂、所以爲盟主」○正友、行、たすきとも。素書「任士無一不益友」○正事、其の事のおもなる人数。又、其の者、唐書「能通者依一」○正營、行、おそれる、遠慮不安の義。正は、營は周旋往來。漢書「王莽傳、人民一、無所錯手足」○得正而驚、行、正しき道を得て死する。禮、檀弓「吾何求哉、吾焉斯已矣」○正術、朝廷、政を行ふ役所、唐代、宣政殿を以て前殿と爲し、之を一といふ。舊唐書、憲宗紀「明道之

西有二武成殿、即一聽政之所也」○正號、たすき名稱。後漢書「公者仁德之一」○正格、たすき格式、正しきのり。夢溪筆談「詩第二字側入、謂之正則」○圖文法にて動詞の活用の一、一定のかたに合するもの。變格の對。〇正樂、たすき音樂。崔日用詩「威英調一、香梵偏一秋空」○正學、〇正しき學問、曲學、異端などの對。史、儒林傳「務一、以言、無曲學以阿一世」○明の方拳孺の書齋の名「方一」○正眼、對、圓劍術の語、敵の眼をまとして刀をかまへる身がまへ。〇正諫、對、正言していさむ。漢書、東方朔傳「一似直、穢德似隱」○正韻、對、かんばせを正しくする。新書「子貢由其家、來謁於孔子、孔子一、擊折而立」○正己、對、己の行を正しくす。禮記「一而不求、於人、則無怨」○正軌、對、たすき、正當なる法軌。潛夫論「明君臨一衆、必以一、正道」○正氣、對、萬物の根元たる至正至大の氣。文天祥「正氣歌」天地有「一、難然賦一、流形」○たすき氣。邪氣の對。文子、符言「君子行一、小人行一、邪氣」

【正氣歌】宋の文天祥が元に囚はれし時、作りし五言の古詩、三十韻、備に忠節の事を述ぶ。我が藤田東湖、吉田松陰等も是に擬して作る。〇たすきすぢみち。漢書、律曆志「剛、其備辭、取一、者、於篇、正道。〇倫理學にて公平の義。〇正しき注解。又、其の名、易經、詩經、禮記等皆一あり、唐の孔穎達著す。【正道】前條に同じ。董仲舒文、夫仁者、正其道、不謀其利、明其道、不計其功。【正器】たすきうつは。韓冠子「法者、天地之一也」。【正議】たすき言論。漢書、車千秋傳「不能一、以輔宰相、阿意苟合、以說其上」。【正近】近きをたす。新語「治外者必調内、平遠者必一」。【正襟】えりをたすし容儀を整へる。聞見錄「顧道爲講論語、晉伯一、肅容聽之」。【正貨】たすき貨幣、即ち金貨、銀貨など。納幣や公債等に對していふ。〇正金。【正會】正月元日朝廷に參内する。【正系】たすき系統。〇正統。【正計】たすきはかりごと。魏計の對。漢書、鄒陽傳「嗟、言于吳、非一也」注「嗟、失也」。

【正經】十三經の稱。【正教】たすきをしへ。晉書、衛玠傳「子證、父、或鞭、父母、問子所在、展以爲恐、一、奏除之」。【正月】陰曆にて一年の首の月の稱。〇太歳、正歳、正陽。【正言】〇たすきことば。後漢書、翟暉傳「目見、正容、耳聞一、趙乘文詩、天聰納一、昌言。〇たすき、〇直言。【正攻】奇計反間等を用ひず、正とせめ撃つ。又、正面より攻め入る。【正射】弓のまと(射的)布に畫くを正といひ、皮に畫くを失といふ。射義「發而不失一、者、其唯賢者乎」中庸「射有似乎君子、失一、反求諸其身」。【不失正】射的にたすき、正も射的。前條參看。【正務】しやくをたすきもつ。歐陽修文「垂一、不、動、聲色」。【正妻】行、ほんさい(本妻)〇嫡妻、正室。【正罪】つみをたす。又、明かなる罪。潛夫論「民人之請、調于吏也、可一、微過、不能一」。【正裝】正服を着る。又、其のよそはひ。【正朔】〇正は年の始、朔は月の始。よりて曆數の義とす。一説正月元日の義。禮、大傳「改一、易、服

色一、史、曆書、王者易姓受命、必慎始、初改一、王者革命すれば必ず曆を改む、其の曆の行はる處は、其の統治權の及べる所になり。故に臣民となることを「奉一」といふ。【正士】行の正しきむらひ。亢倉子「聖主賞一、忠臣一」。【正史】〇史記、漢書の如き紀傳體の歴史、平常の史の義。歴代必ず作るに由る。隋書、經籍志「皆擬一、班馬、以爲一、作者尤廣」〇歴史をたす。王勣詩「蔡、俗、刪、詩、依一、經、一、正確なる歴史。雜史、神史などの對。【正字】〇字畫のたすき文字。俗字、譌字、省文即ち略字などの對。〇官名、書籍の文字を校正するを掌る。事物紀原「漢初置一、祕書監、掌一、圖書古今文字、考一、合同異、今一、之、官、蓋其遺意也」。【正始】はじめをたす。又、たすきはじめ。詩經、序「周南、召南一、之道、王化之基」。【正辭】〇ことばを正す。蔡邕文「砥節礪行、直一、〇正しきことば。〇正言。【正式】ほんたうのしかた(本式)略式の對。〇正格。【正室】〇ほんさい(本妻)側室の對。北史、崔暹傳「文襄盛寵一、昭儀、欲一、立爲一、正妻、嫡妻。

〇嫡子。周禮、春官「一、謂之門子」。【正人】正しき人。書、周命「其侍御僕從、其匪一、善人」。【正眞】眞實なことをいふ。はりなし。偽眞の反對。白居易詩「常疑竹葉猶凡河、始覺梅花不一」。【正嚴】おもてさしき。唐書、魏徵傳「徵家初無一、正嚴、路、傳」。【正邪】〇たすきと、よしまなると。玉海「著一、鏡、御史一、得失、是非、曲直。〇よこしまなる心を正す。左傳「政以治民、刑以一、本妻の腹に生れる。又、其の人。〇嫡出。【正閔】〇もたらありて正しきものと、よけいものものと。正統と閔統と。賈至、虎牢關銘「盛衰千祀、一、更王、〇平年と閔年」。【正書】書體の一、楷書に同じ。翰墨志「前人多能一、而後草書一、眞書」。【正色】〇損いるをたすきする。書經「一、下、同、不、師、言一、〇正しく純粋なる色。青、赤、黃、白、黑の五色。禮、玉藻「衣一、裳、閉色」。【正統】君王の車に乗る時、執りて乗る繩。禮記、疏「一、擬一、君之升一、〇たすきことば。禮記「一、感、人、順風應一、〇聲の調子を

【歴日】^レとしつき、こよみ。蘇軾詩「老去怕看新曆」范成大詩「牀頭新曆、衣上舊塵埃」曆日。【歴巡】^レへめぐる、諸方をまはりある。【歴世】^レよよ、だいたい。元經「懲勸必行、一長久」歴代、累世。【歴沙】^レへわたる。蔣伸文「一清余、動開直道」。【歴代】^レ歴世に同じ。【歴朝】^レ歴代の朝廷。又其の天子。唐書、袁朗傳「一佐命有功」。【歴年】^レ年をへる。又、へたる年。南史、宋文帝紀論「文帝正位南面、一長久、綱維備舉」歴歳。【歴訪】^レ各家をまはりおとづれる。戸別訪問。南史、梁南平王傳「一閭里人士」。【歴落】^レ〇参差としてならぶ貌。蘇頌文「初一以星峙」〇聲音の絶えざる貌。篇本詩「風水眞笙管、一太古調」。【歴亂】^レみだれて次第なき貌。鮑照詩「愛來無行伍、一如軍萬」。【歴覽】^レ一みる。謝靈運詩「江南倦一」。【歴歷】^レ〇一分明なる貌。搜神記「前世之事、一可聞」李日詩「分明楚漢事、一王霸道」〇行列する貌。古樂府「天上何所有、一一種白榆」。【歴】^レ〇かへる(還)もどる。〇かへすもどす。〇借りたる物を返却する。孟、盡心「久假而不歸」〇おくる(饋)物を贈り與へる。論、陽貨「孔子豚」〇しる。論、服從する「附一服」たがふ、服従する「附一服」論、顔淵「天下一仁焉」〇くみす(與)〇ゆるす(許)〇よめる(依)〇とつぐ(據)よめに行く。詩、周南「之子于一」〇いたる。〇まかす、ゆだねる(委)他人の所爲にまかせる。左、襄二「請一死于司敗」〇をほり(終)物事の結局。〇むね、おもむき(指趨)易、繫辭「殊途而同一」〇あふ(合)〇をさむ(藏)〇おもむく(趨)「一往」〇向「〇珠算にて、法一桁」でわらう。【同訓】^レ〇歸。赴。趨。趣の別は赴(走部)二畫の條を見よ。【同義】^レ〇歸。還。反。返。回。旋。〇歸は歸宿と用ふ、もと復たる所に、歸りおちつく意「歸家」「歸郷」の類。〇還は往の反、往き先よりめぐりかへるなり。音センと訓む

十四畫

歸

【歸】^レキ。【歸】^レ〇かへる(還)もどる。〇かへすもどす。〇借りたる物を返却する。孟、盡心「久假而不歸」〇おくる(饋)物を贈り與へる。論、陽貨「孔子豚」〇しる。論、服從する「附一服」たがふ、服従する「附一服」論、顔淵「天下一仁焉」〇くみす(與)〇ゆるす(許)〇よめる(依)〇とつぐ(據)よめに行く。詩、周南「之子于一」〇いたる。〇まかす、ゆだねる(委)他人の所爲にまかせる。左、襄二「請一死于司敗」〇をほり(終)物事の結局。〇むね、おもむき(指趨)易、繫辭「殊途而同一」〇あふ(合)〇をさむ(藏)〇おもむく(趨)「一往」〇向「〇珠算にて、法一桁」でわらう。【同訓】^レ〇歸。赴。趨。趣の別は赴(走部)二畫の條を見よ。【同義】^レ〇歸。還。反。返。回。旋。〇歸は歸宿と用ふ、もと復たる所に、歸りおちつく意「歸家」「歸郷」の類。〇還は往の反、往き先よりめぐりかへるなり。音センと訓む

ときは、旋に通ず「一師」〇反はひつくりかへす義にて、折りかへりにかへすなり。孟子「反三齊滕之路」〇返は反に同じ。〇復は二度もとの路をかへるなり、反復とは二度くりかへす義。〇回はぐるごとめぐりかへるなり。俗に同章と用ふるが如し。唐高宗紀「李勣爲姊養粥、風回蔡其鬢髮」〇旋はめぐるとも訓む、回と同じ。【歸】^レ〇かへる(還)もどる。〇かへすもどす。〇借りたる物を返却する。孟、盡心「久假而不歸」〇おくる(饋)物を贈り與へる。論、陽貨「孔子豚」〇しる。論、服從する「附一服」たがふ、服従する「附一服」論、顔淵「天下一仁焉」〇くみす(與)〇ゆるす(許)〇よめる(依)〇とつぐ(據)よめに行く。詩、周南「之子于一」〇いたる。〇まかす、ゆだねる(委)他人の所爲にまかせる。左、襄二「請一死于司敗」〇をほり(終)物事の結局。〇むね、おもむき(指趨)易、繫辭「殊途而同一」〇あふ(合)〇をさむ(藏)〇おもむく(趨)「一往」〇向「〇珠算にて、法一桁」でわらう。【同訓】^レ〇歸。赴。趨。趣の別は赴(走部)二畫の條を見よ。【同義】^レ〇歸。還。反。返。回。旋。〇歸は歸宿と用ふ、もと復たる所に、歸りおちつく意「歸家」「歸郷」の類。〇還は往の反、往き先よりめぐりかへるなり。音センと訓む

【歸】^レ〇かへる(還)もどる。〇かへすもどす。〇借りたる物を返却する。孟、盡心「久假而不歸」〇おくる(饋)物を贈り與へる。論、陽貨「孔子豚」〇しる。論、服從する「附一服」たがふ、服従する「附一服」論、顔淵「天下一仁焉」〇くみす(與)〇ゆるす(許)〇よめる(依)〇とつぐ(據)よめに行く。詩、周南「之子于一」〇いたる。〇まかす、ゆだねる(委)他人の所爲にまかせる。左、襄二「請一死于司敗」〇をほり(終)物事の結局。〇むね、おもむき(指趨)易、繫辭「殊途而同一」〇あふ(合)〇をさむ(藏)〇おもむく(趨)「一往」〇向「〇珠算にて、法一桁」でわらう。【同訓】^レ〇歸。赴。趨。趣の別は赴(走部)二畫の條を見よ。【同義】^レ〇歸。還。反。返。回。旋。〇歸は歸宿と用ふ、もと復たる所に、歸りおちつく意「歸家」「歸郷」の類。〇還は往の反、往き先よりめぐりかへるなり。音センと訓む

【歸】^レ〇かへる(還)もどる。〇かへすもどす。〇借りたる物を返却する。孟、盡心「久假而不歸」〇おくる(饋)物を贈り與へる。論、陽貨「孔子豚」〇しる。論、服從する「附一服」たがふ、服従する「附一服」論、顔淵「天下一仁焉」〇くみす(與)〇ゆるす(許)〇よめる(依)〇とつぐ(據)よめに行く。詩、周南「之子于一」〇いたる。〇まかす、ゆだねる(委)他人の所爲にまかせる。左、襄二「請一死于司敗」〇をほり(終)物事の結局。〇むね、おもむき(指趨)易、繫辭「殊途而同一」〇あふ(合)〇をさむ(藏)〇おもむく(趨)「一往」〇向「〇珠算にて、法一桁」でわらう。【同訓】^レ〇歸。赴。趨。趣の別は赴(走部)二畫の條を見よ。【同義】^レ〇歸。還。反。返。回。旋。〇歸は歸宿と用ふ、もと復たる所に、歸りおちつく意「歸家」「歸郷」の類。〇還は往の反、往き先よりめぐりかへるなり。音センと訓む

【歸】^レ〇かへる(還)もどる。〇かへすもどす。〇借りたる物を返却する。孟、盡心「久假而不歸」〇おくる(饋)物を贈り與へる。論、陽貨「孔子豚」〇しる。論、服從する「附一服」たがふ、服従する「附一服」論、顔淵「天下一仁焉」〇くみす(與)〇ゆるす(許)〇よめる(依)〇とつぐ(據)よめに行く。詩、周南「之子于一」〇いたる。〇まかす、ゆだねる(委)他人の所爲にまかせる。左、襄二「請一死于司敗」〇をほり(終)物事の結局。〇むね、おもむき(指趨)易、繫辭「殊途而同一」〇あふ(合)〇をさむ(藏)〇おもむく(趨)「一往」〇向「〇珠算にて、法一桁」でわらう。【同訓】^レ〇歸。赴。趨。趣の別は赴(走部)二畫の條を見よ。【同義】^レ〇歸。還。反。返。回。旋。〇歸は歸宿と用ふ、もと復たる所に、歸りおちつく意「歸家」「歸郷」の類。〇還は往の反、往き先よりめぐりかへるなり。音センと訓む

【歸】^レ〇かへる(還)もどる。〇かへすもどす。〇借りたる物を返却する。孟、盡心「久假而不歸」〇おくる(饋)物を贈り與へる。論、陽貨「孔子豚」〇しる。論、服從する「附一服」たがふ、服従する「附一服」論、顔淵「天下一仁焉」〇くみす(與)〇ゆるす(許)〇よめる(依)〇とつぐ(據)よめに行く。詩、周南「之子于一」〇いたる。〇まかす、ゆだねる(委)他人の所爲にまかせる。左、襄二「請一死于司敗」〇をほり(終)物事の結局。〇むね、おもむき(指趨)易、繫辭「殊途而同一」〇あふ(合)〇をさむ(藏)〇おもむく(趨)「一往」〇向「〇珠算にて、法一桁」でわらう。【同訓】^レ〇歸。赴。趨。趣の別は赴(走部)二畫の條を見よ。【同義】^レ〇歸。還。反。返。回。旋。〇歸は歸宿と用ふ、もと復たる所に、歸りおちつく意「歸家」「歸郷」の類。〇還は往の反、往き先よりめぐりかへるなり。音センと訓む

【歸】^レ〇かへる(還)もどる。〇かへすもどす。〇借りたる物を返却する。孟、盡心「久假而不歸」〇おくる(饋)物を贈り與へる。論、陽貨「孔子豚」〇しる。論、服從する「附一服」たがふ、服従する「附一服」論、顔淵「天下一仁焉」〇くみす(與)〇ゆるす(許)〇よめる(依)〇とつぐ(據)よめに行く。詩、周南「之子于一」〇いたる。〇まかす、ゆだねる(委)他人の所爲にまかせる。左、襄二「請一死于司敗」〇をほり(終)物事の結局。〇むね、おもむき(指趨)易、繫辭「殊途而同一」〇あふ(合)〇をさむ(藏)〇おもむく(趨)「一往」〇向「〇珠算にて、法一桁」でわらう。【同訓】^レ〇歸。赴。趨。趣の別は赴(走部)二畫の條を見よ。【同義】^レ〇歸。還。反。返。回。旋。〇歸は歸宿と用ふ、もと復たる所に、歸りおちつく意「歸家」「歸郷」の類。〇還は往の反、往き先よりめぐりかへるなり。音センと訓む

一「戦一」
五 畫

【殃】 アヤ

○とが(咎)○わざはひ(禍)
「天」餘一書、伊訓「作不善降之百」○わざはひする。そ(なふ)(害)やぶる(敗)孟告子「謂之民」○つみす(罰)
【殃禍】ワカズハヒ。殃・禍・災・厄の別は禍(示部九畫)の條を見よ。

【殃咎】ワカズハヒとがめ。左傳「哀樂失時、一必至」○殃咎。

【殃禍】ワカズハヒ。○殃咎。

【殃及】ワカズハヒ。○古、楚國の城門火を失せし時、池水を汲み盡したれば、魚皆死せり、よけてわざはひの故なくして他に及ぶ。杜弼、梁文「楚國亡、狼、禍延、林木、城門失火」○呂覽、必己には、宋の桓司馬が其失ひたる寶玉を得ん爲めに池の水を汲み干し魚の死せし事を記す。○轉じて火災の禍。池魚之殃。

【殂】 シ

しぬ(死)ゆく(逝)死して逝く。をはる、ほろぶ。

【殆】 タイ

○あやふし(危)「危」不安心。論、爲政「多見闕」○そ(なふ)(害)○はじめ(始)○ほとんと、十中の八九。漢書、李夫人傳「夫人病甚、一將不起」○ちかし。孟、離婁「一於不可」○おこたる(意)○やぶる。○つかれる(疲)「困」○「疲」○曹植賦「日既西傾、車馬煩」

【殆危】ワカズハヒ。危の別は危(日部四畫)の條を見よ。

【殆幾】ワカズハヒ。危也、近也、將也と註す。八九分までそれになりて、あぶなき場合の義。易經「顔氏之子、其殆庶幾乎」○幾は幾微の意より轉用して、助辭とす。通鑑の漢紀に「豎儒幾敗而公事」とあり、殆と大差なし、されば孔明出師表には「幾敗北山、殆死潼關」と互用したり。

【殄】 シ

○たゆ、たつ(絶)書、畢命「餘風末」○つく、つくす(盡)○

【殛】 ケキ

さく、卵裂けて孵化せず。禮、樂記「卵生者不」

【殊】 シ

○たゆ、たつ(絶)断たやしつ(殊)○さだむ、きめる(決)○死(殊)○わかつ(別)○ことす、こ

となり(異)易、繫辭「天下同歸而一塗」○すぐ(過)後漢書、梁竦傳「母氏年七十」○こと、とりわけて、甚だしく。史、留侯世家「良一大驚、隨目之」○大いに傷つきて未だ死せず。

【殊異】ワカズハヒ。殊・異の別は異(田部七畫)の條を見よ。

【殊渥】ワカズハヒ。杜甫詩「文彩承」○流傳必絶倫

【殊位】ワカズハヒ。特に尊きくら。張華、晉文王誥「殊位」○盛禮

【殊異】ワカズハヒ。又、ことす。章疇文「歴觀古今功名士、皆有積累」○之迹「殊異」

【殊尤】ワカズハヒ。特別にすぐれる。白居易賦「彼皆瑣細、此實一」

【殊域】ワカズハヒ。遠く隔りたるよその國。晉書、樂志「一既實陳造詩、淮民魚米餘、百貨仰」○異域・殊境

【殊音】ワカズハヒ。ことなりて珍らしき音。後漢書、西南夷傳論「一異節之伎、列唱於門外」

【殊奇】ワカズハヒ。遠きはてのくに、奇は末。晉書、陸機傳「化協」○風衍遠折「殊奇」

【殊榮】ワカズハヒ。特別の光榮。江表文「世荷」○勳隆重、眷倚

【殊越】ワカズハヒ。こえる。夢溪筆談

【殊恩】ワカズハヒ。特別なるめぐみ。謝靈運「舞賦」承置體之「一」○殊寵。

【殊佳】ワカズハヒ。すぐれたるよし。王羲之文「僕近修」○絶佳。

【殊好】ワカズハヒ。すぐれたるよし。世説「王祥家有」○李樹、結子「一」

【殊效】ワカズハヒ。○すぐれたるてがら。魏書、于栗磾傳「彰」○大功。殊功。偉勳。殊勳。○すぐれたるききめ。○特效。

【殊號】ワカズハヒ。特別なとなへ。後漢書、皇后紀論「雖」○呂氏專政上官臨制、亦無「一」

【殊技】ワカズハヒ。○すぐれたるわざ。○殊伎。○爲す所のわざをことす。莊、秋水「騏驎騁、一日而馳千里、捕風不如」○言「一」也

【殊境】ワカズハヒ。よそのくに(外國)晉書、禿髮利鹿孤載記「中分天下、威振」○

【殊鄉】ワカズハヒ。よその地。王勃序「輶仙駕于」○過「良朋于異縣」○異鄉。異境。

【殊遇】ワカズハヒ。とりわけてあつてもてなし。特別の優待。蜀志、諸葛亮傳「蓋追先帝之」○欲「報」之「于陛下」也

【殊勳】ワカズハヒ。とりわけすぐれたるいさを。李德林、天命論「立」○于魏室、建「盛業于周朝」

【殊業】ワカズハヒ。衆人にすぐれてぬきんて。晉書、單道開傳「法師業行、一

【殊冠】ワカズハヒ。冠。拔羣。出羣。絶羣。

【殊科】ワカズハヒ。しなを異にする。陳琳文「強弱」○衆寡異論

【殊怪】ワカズハヒ。ふしぎにあやしきもの。拾遺錄「瑰寶」○之物、充「于王庭」

【殊荒】ワカズハヒ。遠きえびす。荒は荒服。魏志、陳留王興紀「震」○懼武功、則威蓋「一」

【殊刑】ワカズハヒ。特別に重きしおき。晉書、刑法志「大辟之罪、一」○之極

【殊眷】ワカズハヒ。特別なるひきたて。北史、柳莊傳「深被」○梁主「一」○殊恩。殊寵。

【殊功】ワカズハヒ。すぐれたるいさを。張纘賦「誼」○於「百王」○殊勳。殊效。

【殊操】ワカズハヒ。すぐれたるみさを。晉書、阮种傳「弱冠有」○一、爲「嵇康」○所重「一」○異操。

【殊死】ワカズハヒ。○死を決する。史、淮陰侯傳「韓信張耳已入」○水上軍、軍皆「一」○戰、不「可」○收「一」○死罪に當る囚人。莊、在「宥」○一者相望也

【殊死刑】ワカズハヒ。死刑をいふ。殊は絶。文獻通考「漢哀帝輕」○一八十一事「一」

【殊送】ワカズハヒ。すぐれたるよきあぢはひ。傅休奕、桑椹賦「嘉味」○一、食之無「一」○殊味。

【殊祥】ワカズハヒ。ことなるめでたききざし。司馬光文「休氣充塞、一」○輻湊

【殊狀】ワカズハヒ。○形をことす、ことな

れる形。後漢書、彌衡傳贊「一」○共體、同聲異氣○めづらしくかはれる形。丘遲詩「朝絕峯」○一奇狀・異態。

【殊常】ワカズハヒ。尋常よりすぐれる。晉書、張載傳「處」○守平之世、欲「建」○一之勳「一」○超常・非常。

【殊獎】ワカズハヒ。特別にすぐれたる。徐陵文「塗蒙」○一、歸嗣「本朝」

【殊勝】ワカズハヒ。○とりわけてすぐれる。朱熹、梅花詞「天然」○一、不關「風露」○雪「一」○圓けなげ、奇特。

【殊稱】ワカズハヒ。すぐれたるとなへ、よき名。孫觀詩「先生谿上宅、華榜有」○一

【殊職】ワカズハヒ。役目をことす、ことなる役目。莊子「五官」○一、君不「私」○故國治

【殊聲】ワカズハヒ。こゑをことす。西京賦「衆形」○一、不「可」○勝論

【殊績】ワカズハヒ。すぐれたるいさを。晉書、王宏傳「在郡有」○一「一」○異績。

【殊絶】ワカズハヒ。ことす、すぐれる。諸葛亮文「曹操智計」○一「于」○人「一」

【殊選】ワカズハヒ。ことなるくはしきえらび。崔暹文「資」○爾令猷、副「我」○一「一」○特選・妙選。

【殊宗】ワカズハヒ。異なる宗派。又、異なる教旨「五燈會元」

【殊俗】ワカズハヒ。○風俗をことす。詩經、序「國異」○政「家」○一、而變「風雅」○作「一」○風俗を異にする他國。史、始

皇紀、餘威振乎「一」○帝範、務農「一」○惠「可」○懷也、則「一」○歸風「一」○殊域。

【殊族】ワカズハヒ。ちすちのことなるやから。王傑文「初交」○一「一」○卒成「一」○同盟「一」○異族。

【殊致】ワカズハヒ。歸する所をことす。章應物詩「出處似」○一「一」○喧靜兩皆靜

【殊智】ワカズハヒ。すぐれたるちよ。高適詩「直道寧」○一、先「難」○忽「抗」○行

【殊珍】ワカズハヒ。とりわけ珍らしき物。宋史、外國傳「不實」○一、惟「貴」○良馬「一」

【殊寵】ワカズハヒ。すぐれたるいづくしみ。李白詩「龍顏」○一、麟閣「過」○天居「一」○殊恩。

【殊廷】ワカズハヒ。○仙人の居る廷。史、封禪書「襄」○一「一」○焉、○他國の朝廷。殊廷。

【殊職】ワカズハヒ。ことなるわだち。轉じて、ことなる進路。陳傳良詩「總角相看」

【殊等】ワカズハヒ。しなをことす。ことなりたる等級。後漢書、楊賜傳「禮設」○一、物有「三」○服章「一」

【殊關】ワカズハヒ。のちがけにてたかふ。唐書、郭孝恪傳「窮討」○一、獵「取」○其國「一」○猶「鹿」○家「一」○然

【殊特】ワカズハヒ。とりわけて異り。南史、梁武帝紀「帝生而有」○異光「一」○狀貌「一」○一、梁簡文帝、菩提樹頌「國界」○一「一」○特異。

【殊途同歸】ワカズハヒ。道を異にして歸を同

【殺氣】ツツ〇秋冬のものすき氣。禮。月令「仲秋之月、一浸盛」陰氣。〇戦争などの殺伐の氣。杜甫詩「西南青和好、一一日相繼」

【殺菌劑】ツツツ 飲食物の細菌を殺すに用ふる薬。

【殺獲】ツツツ ころすと、いけどると。班固「四都賦」製三軍之一

【殺草】ツツツ 霜がくさをからす。春秋。僖三三「隕霜不」

【殺矢】ツツツ 近き距離の物を射るに用ふる矢。又、獵に用ふる矢。周禮「考工記」治氏爲

【殺死】ツツツ ころす。殺害。

【殺人】ツツツ 命をすてる。論衡「殺身」ツツツ 生命をすてる。論衡「聖公」子曰「志士仁人、無求生以害仁、有」

【殺傷】ツツツ ころすと、きずつけると。梁武帝文「一有」

【殺青】ツツツ 竹を火にあぶりて青みを去る。古、紙なかりし時、竹の札を用ひて字を書くに、書き易く且つ蟲をを防ぐ爲めに火にあぶりて青みを去る。後漢書「吳祐傳」

【殺到】ツツツ 勢よくよせきたる。演義三國志「混戰遂遙、一」

【殺入】ツツツ 勢よくつきいる。演義三國志「一曹兵塞邊」

【殺伐】ツツツ 〇ころす。後漢文「威武一、功利爭奪」

【殺風景】ツツツ 風雅のおもむきを失ふ、俗悪なる義。李義山の雜纂の殺風景の條に「花間唱道、看」

【殺上舖席】ツツツ などを擧げたり。

【殺戮】ツツツ ころす。戮は罪し殺す。書「泰誓」作威一

【殺掠】ツツツ ころしかすむ。史「韓長孺傳」匈奴入一

【殺略】ツツツ 人をころし物をうばふ。晉書「武帝紀」一

【殺下】ツツツ やせこけたる。淮南子「深目鷹肩、豐上而」

【殺禮】ツツツ けいぎを降し略す。殺は滅削。周禮「秋官、象胥、凶荒」

【殺生】ツツツ 〇十惡の一、生きものを殺す。大藏法數「一者、謂」

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

【殺】ツツツ 〇カウ 〇カワ 〇カク 〇カク 〇カク 〇カク

○たとふ(譬)「比」莊、知北遊「每下愈一」○まして、いはんや(例)乎と結びてをやと讀む。易、繫辭「一於鬼神乎」○いよいよ、ますます、ますます(益)○ここに(茲)詩、小雅「一也永嘆」○たまふ、たまもの(賜)賜と通ず。○ありさま、やうす(状態)「老」情「一近」○來は他人の來訪をたふとびていふ辭。司馬相如、子虛賦「足下不遠千里、來一齊國」

洞

○さむし(澆・寒)○とほし(遠)○迴。○ふかくひろし(深廣)

【洞酌】詩經、大雅の篇名、遠くみ渡る曉。詩、大雅「一彼行深」

泣

○ながれる。○露が光る。謝靈運詩「花上露猶一」○露の垂れる貌。○涕を流す貌。

【泣】泣。水の湧きて流るる貌。張衡賦「水一而湧」

沽

○うる(賣)論、子罕「求善買而一諸」○かふ(買)酒を買ふ。論、鄉黨「酒市脯」○酤。○大い北京天津の咽喉に當る。○おろそか(略)○物があらくあし(蠱惑)○酒をうる者。又、あきうと「屠」

○の沽。買・沽。市買・買・羅の別は買(貝部五畫)の條を見よ。

酒

○はなしる、なみだと共に鼻より出る液「涕」(涕は目より出る液)○川の名、山東省に在り、運河に入る。

【泗水】泗水。魯國にある二川の名、孔子其のほとりにて子弟を教ふ。故に轉じて、孔子の學を斥す。周伯琦詩「行行望一」

注

○そそぐ(灌)水をかける「灌」つぐ、水がそそぎ入る。○あつむ(聚)○うつ(擊)○つく(屬)むかふ(意所向)「一意」

かし「一解」評「一標」註。

【洞酌】詩經、大雅の篇名、遠くみ渡る曉。詩、大雅「一彼行深」

【注訓】本文の間に入れたる解釋、訓はよみかた。後漢書、何休傳「一季經、論語」註。

【注】天陽照四海、一、首不領。愈詩「天陽照四海、一、首不領」

文、非但字「一」乃畫畫抽心し

沮

○とどむ(止)さへぎりとどめる「一止」○はばむ、勢がなくなる「一喪」○こほ(壞)○やぶる(敗)○もる(泄漏)○おどす、恐怖せしめる。禮、儒行「之以兵」○しめりけ多き地(下濕地)○長一は人名。論、微子「長一桀、耦而耕」○川の名、陝西省鄜州に在り、洛水に注ぐ。漆水。

【沮表】氣がはばみうしなふ、氣おちする「士氣」

【沮】はばみとどめる。唐書、張說傳「長一其擾、一」

○ます、そふ。○添。○洪水の支流。○ひたす(漬)うるほす(濡)○霧。○みる(視)うかがふ。○規。○自ら整ふる貌。○いはかみくうすし、輕薄なる貌。

○同。○沾。○濕。○潤。○澤。○濡。○過の別は濕(水部十四畫)の條を見よ。

【沾】^シ 汚。○一説に自ら整ふ貌。○史。魏其傳。○一。自喜耳。多易。難。以爲相持。重。遂不用。【沾汗】^シ 汗。うるほひける。高僧傳。釋曇始游。化關中。足白。手面。既。涉泥水。未。嘗。一。時。稱。百。足。和。尚。

【沾】^シ 汚。○一。自喜耳。多易。難。以爲相持。重。遂不用。【沾汗】^シ 汗。うるほひける。高僧傳。釋曇始游。化關中。足白。手面。既。涉泥水。未。嘗。一。時。稱。百。足。和。尚。

【沾】^シ 汚。○一。自喜耳。多易。難。以爲相持。重。遂不用。【沾汗】^シ 汗。うるほひける。高僧傳。釋曇始游。化關中。足白。手面。既。涉泥水。未。嘗。一。時。稱。百。足。和。尚。

【沾】^シ 汚。○一。自喜耳。多易。難。以爲相持。重。遂不用。【沾汗】^シ 汗。うるほひける。高僧傳。釋曇始游。化關中。足白。手面。既。涉泥水。未。嘗。一。時。稱。百。足。和。尚。

光逸傳。家貧衣單。一。無。可。代。【沾】^シ 汚。○一。自喜耳。多易。難。以爲相持。重。遂不用。【沾汗】^シ 汗。うるほひける。高僧傳。釋曇始游。化關中。足白。手面。既。涉泥水。未。嘗。一。時。稱。百。足。和。尚。

【沾】^シ 汚。○一。自喜耳。多易。難。以爲相持。重。遂不用。【沾汗】^シ 汗。うるほひける。高僧傳。釋曇始游。化關中。足白。手面。既。涉泥水。未。嘗。一。時。稱。百。足。和。尚。

【沾】^シ 汚。○一。自喜耳。多易。難。以爲相持。重。遂不用。【沾汗】^シ 汗。うるほひける。高僧傳。釋曇始游。化關中。足白。手面。既。涉泥水。未。嘗。一。時。稱。百。足。和。尚。

【沾】^シ 汚。○一。自喜耳。多易。難。以爲相持。重。遂不用。【沾汗】^シ 汗。うるほひける。高僧傳。釋曇始游。化關中。足白。手面。既。涉泥水。未。嘗。一。時。稱。百。足。和。尚。

【沾】^シ 汚。○一。自喜耳。多易。難。以爲相持。重。遂不用。【沾汗】^シ 汗。うるほひける。高僧傳。釋曇始游。化關中。足白。手面。既。涉泥水。未。嘗。一。時。稱。百。足。和。尚。

【沾】^シ 汚。○一。自喜耳。多易。難。以爲相持。重。遂不用。【沾汗】^シ 汗。うるほひける。高僧傳。釋曇始游。化關中。足白。手面。既。涉泥水。未。嘗。一。時。稱。百。足。和。尚。

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

○あわ、水の上のうたかた(水上浮漚)○は水の流れる貌。又、水の噴き涌く聲。○さかんなり(盛)

の學科。
 【法貨】の 國法によりて通用せしむる貨幣。
 【法外】の 〇法度にはづれる。〇度外。〇りくつに合はぬ。〇不合理。
 【法官】の 裁判官。唐書、百官志、處斯平允、爲二一之最。〇
 【法憲】の 〇おきて。後漢書、北海衛王傳、永平中、一、頗峻、陸乃謝絶賓客、放二心音樂。〇
 【法言】の 〇ただしきことば。孝經「非二先王之、不三敢言」〇法語之言。〇揚子一(書名)の略。
 【法故】の 法則故事、古よりの正しきしきたり。禮、月令、黜職文章、必以二一。〇
 【法語之言】の 正しく嚴かに説きまことば。論、子罕「一、能無從乎、改之爲貴」
 【法座】の 〇正しき座。漢書、梅福傳「當二戶牖之、盡三平生之恩」
 【法】の 〇教の道を説く處。王褒文「文帝乃升二一、説三之言」
 【法曹】の 法官に同じ。唐六典「一、掌二按欺隱法罰刑獄等事」〇法吏、秋官。
 【法式】の 〇のり、てはん。呂覽、夏桀賞罰無方、不循二一。〇格式、法度。
 【法臣】の 法度をよくまもる臣。管子「諂臣貴、而二一賤」
 【法人】の 人類又は物件の集合體を

法律上、個人と同様に權利義務の主體と見たるもの。
 【法相】の 國司法大臣の異名。
 【法酒】の 禮式を正して飲むさかもり。史、叔孫通傳、禮畢復置二一。〇注「一者猶言三禮酌謂不三飲之至三醉」
 【法術】の 法律を以て國を治めるにだて。史、韓非傳「喜三刑名一之學」
 【法書】の 〇おきてのかきもの、法律書。易林、典册「一、藏在二閣臺」〇習字手本。〇法帖。
 【法繩】の 〇おきてを以て正す。晉書、王濟傳、性峻厲、明二一之。〇
 【法職】の 法律を掌るやく。齊書、孔稚圭傳、即便擢用、使二一。〇
 【法制】の 〇おきて。〇法律。〇法律と制度と。禮記、命「有司、修二一、繕二因圖」
 【法制局】の 國内閣に直屬して法令の起草、法案の取調修正等を掌る役所。
 【法則】の 〇おきて。又、法律規則。周禮、太宰「一、以敷二其官」〇軌則。
 【法治】の 法律を以て國をささめる。〇一國。
 【法廷】の 〇しらす、裁判所。
 【法定】の 法律にて定める。又、其の事項。
 【法程】の 〇のり、おきて。漢書、賈誼傳「立二綱陳三紀、輕重同得、後可二以

爲萬世一〇法則、法式。
 【法帖】の 法則とすべき習字手本。法帖譜系、黃伯思有二一刊誤二卷〇〇法書。
 【法典】の 〇のり、おきて。又、其の書きもの。
 【法度】の 〇はつと、のり、きそく。書、大禹謨「敬二戒無虞、罔二失二一」〇〇法則。〇〇さしとめ。〇禁制。
 【法服】の 〇制定せられたる正式のきもの。孝經「非二先王之、不三敢服」〇制服。〇〇僧侶のころも。法華經、制二除鬘髮、而被二一。〇法衣、袈裟。
 【法備】の 〇〇諸規則整ひをなはる。管子「名正一、則聖人無事」
 【法馬】の 〇はかりのふんどら。〇秤錘。
 【法網】の 法律のあみ、法律、罪人を捕へての水さざるを漁獵のあみに比していふ。
 【法吏】の 法官に同じ、裁判官。
 【法理】の 〇おきてのすぢみち。法律の原理。魏志、明帝紀、注「希好二學多識、特留二意于一」
 【法律】の 國家の規定せしおきて。國法。淮南、主術「一、度量者、人主之所二以執二下」
 【法令】の 國の法律と命令と。又、おきて。〇一全書。〇律令。
 【法例】の 〇おきて。又、すべての法令に通ずる規則。晉書、刑法志、改舊

律、爲三刑名一〇
 【法王】の 〇佛法のかしら、即ち釋迦如來。維摩經「一、法力超羣」〇參詩「抽二簪禮二一」〇羅馬教の主權者。
 【法印】の 〇佛のまを世にひろめる、印は世に印象する。法華經「我此二一、爲二欲三利三益世間」故說「國〇第一等の僧位、僧正の官に相當す。〇山伏の稱、修驗者。
 【法雨】の 佛法のめぐみを雨の物をうるほすに喩ふ。慈恩傳「引三慈雲於四極、注二一於東垂」
 【法衣】の ころも。〇僧衣、法服、袈裟。
 【法會】の 〇佛説法を説く爲めに衆を會する。陳書、岑之敬傳「預三重雲殿一〇法華經、開二其經」〇隨喜、已從二一、出、至於餘處。〇轉じて佛式にて追福を營むにいふ。〇法事、佛事。
 【法筵】の 〇佛説法を説く席。張九齡詩「壁石開三精舍、金光照二一」
 【法鏡龍象】の 佛法を説くむしろの有力者。龍は水中の有力者、象は陸上の有力者、故に喩ふ。黃庭堅詩「高居大士是龍象、注「今以二負三荷大法者比之龍象、傳燈錄、達磨傳、波羅提、法中龍象」
 【法界】の 〇關ほとけの道の世界。金剛經新註「一、混然」蘇軾詩「俯仰盡二一、達達寄二入真」〇佛教徒の

世界。〇佛門。
 【法海】の 佛の道、海は其の廣きに喩ふ。王筠詩「三縛解三智門、六塵清二一」
 【法號】の 〇戒名。〇の類。謝小娥傳「竟以三小娥二爲二一、不三忘二木也」〇法名。
 【法炬】の 法燈に同じ。梁簡文帝、重「佛佛講一啓、智林一、人人並持」
 【法供】の 佛のまつり。華嚴經「諸供養中、一、最重」
 【法藥】の 佛法のわざ。謝靈運文「一、日茂、隨喜何極」
 【法眼】の 〇佛道を悟りたる義。猶在盲人の眼を開ける如し、故にいふ。金剛經「如來有二一」〇註「開二法自悟名二一」〇法印に次ぐ僧位、僧都の官に相當す。
 【法事】の 〇佛法上の事。〇梁書、皇后傳「悉以充二一」〇佛式の追福。又、其のあつまり。〇法會。
 【法身】の 〇のり、佛法を悟りたる身、佛三身の、佛の木體にして三千世界にみちわたるもの。涅槃經「離二無礙、有、所謂二一」
 【法親王】の 〇出家せられたる後に親王官下位のありし親王の稱。
 【法主】の 〇佛敎の主、釋迦をいふ。〇法王。〇佛敎の一派の長。ほつしゆ「木願寺一」
 【法體】の 〇宇宙萬有の真相。〇僧侶のすがた。〇僧形。

【法道】の 〇のり、の道。釋氏稽古略「五祖弘忍大師(中略)嘗請三于四祖一曰、一、可二得二開乎」
 【法燈】の 〇のり、のともしび、佛法を以て迷執を破ること、燈火の暗を照すが如し、故に喩ふ。劉孝綽、栖隱寺碑「一、永傳、勝因長久」〇法炬。
 【法味】の 〇佛敎のおもむき。梁昭明太子詩「已知二一樂、復悅三言言」
 【法名】の 〇法號に同じ。
 【法門】の 〇佛法に入る道、門は門戸の義。唐書、蕭瑀傳「梁武帝、心于釋氏、而文銳三意于一」〇佛門。
 【法樂】の 〇佛法を信仰してよろこびたのしむ。維摩經、菩薩品、汝等已發三道意、有二一、可二以自娛、不應三復樂三欲樂一也。〇法悅。〇國なきみ、保養。
 【法輪】の 〇佛法をいふ、佛の説きたる正法が邪見を破し外道を服すること、轉輪聖王の持てる寶輪のよしく山岳凸凹をも平かにする威力あるに比す。寶輪は圓の輪鋒也。
 【法侶】の 〇僧侶に同じ。梁武帝文「恆沙衆生、皆爲二一」
 【法類】の 〇佛敎の僧侶の互に呼ぶ稱。
 【法力】の 〇佛法の能力。白居易文「一、所攝、鮮、不歸心」
 【法皇】の 〇佛門に入られたる太上天皇。

【法華】の 〇經文の名、ほけきやう。南史、徐孝克傳「夜講三誦一經」〇〇日蓮宗の別名。
 【法華經】の 妙法蓮華經の略。天台宗、日蓮宗の正依經にして、羅什三藏の譯せるもの、分ちて二十八品とす。
 【法橋】の 〇佛説法を説きて人を濟度する。華嚴經「與二造一、度人、不三休」〇〇法眼に次ぐ僧位。
 【法相宗】の 〇一切萬有の性相を説明し三界唯一心なることを明かにせし宗派、印度の戒賢に始り、我國にては孝徳天皇の時、道昭が唐の支那より受け來りしもの。
 【法師】の 僧侶の通稱。法華經「當修二梵行、皆爲二一」
 【法螺】の 〇佛等、又は修驗者の吹き鳴らすほら貝。王勃文「鳴二一、而再唱」〇〇其の聲の大いなるによりてうそ、大言の義とす。〇一を吹く。
 【法被】の 〇半被の褌、勞働者の服、もと武家の中間袴などの著たるもの。

【泛】の 〇ハシ、ホン、〇ホウ、フ、
 〇うかぶ(浮)〇ひろし。〇汎。〇浮一は、俗に切實ならざる義とす。〇くつがへす(覆)〇一覆」
 【泛溢】の 〇水があふれる。北史、高隆之傳「起三長隄、以防二一」〇汎溢。
 【泛菊會】の 〇九月九日の節句に菊花を酒に浮べて飲む宴會、重陽の宴。風土記「俗説以二重九一相會、登山飲三菊花酒、謂三之登高會、又謂二之一」〇登高會。
 【泛觀】の 〇ひろくほしむまに見る。司馬相如賦「於是乎周覽二一」
 【泛泛】の 〇うかべた。水經、注「河水盛溢、一、狐子、金隄決壞」
 【泛使】の 〇海を渡りて來る外國の使臣。
 【泛舟】の 〇船を浮べる。唐書、閻立本傳「一、春苑池」〇汎舟、泛艇。
 【泛艇】の 〇さかづきを浮ぶ。儲光羲詩「洛東一、遊」〇流艇。
 【泛稱】の 〇ひろくとなへ、おしなべていふ。〇汎稱。
 【泛漚】の 〇水がみなぎる。王羲之文「波湖一、船不能渡」
 【泛艇】の 〇小舟をうかべる。宋鑿詩「晴湖一、鷗衝、夜郎懸、燈馬卸鞍」
 【泛漚酒】の 〇端午の節句に菖蒲を酒にうかべて飲むをいふ。荆楚歲時記
 【泛漚】の 〇ただよふ。江淹詩「參差萬葉下、一、百流前」
 【泛漚】の 〇ひろく見る。梁昭明太子文「歷三觀文園、一、辭林」〇泛觀。
 【泛論】の 〇ひろく全體にわたって論説

る貌。盛大なる貌。又、善美なる貌。又、魚がゆったりと尾を搖らす貌。又、ただよふ、歸する所なき貌。○さまよふ、伴と通ず。○外國の稱「東」「西」○國西洋「一學」「一食」「一語」○漢水に入る川の名。

【洋流】洋流。○水の盛んなる貌。詩、衛風「河水」○多くなる貌。詩、魯頌「萬舞」○善美なる貌。書、伊訓「聖謨」○涯りなき貌。楚辭「大招」西方流沙、滂々只○歸する所なき貌。楚辭、哀郢「一而爲客」

【洛】

○川の名、黄河の支流。○一は水の流れる貌。○つづく。○地の名、洛陽をいふ、今の河南省河南府。○雒。○京都の稱「上」「中」

【流】

○ながる、ながす、ながれ、流れる水「河」「本」「支」「奔」「濁」「孟、梁惠王「從」下、而忘反」○うかぶ。○根源なし「一言」○およぶ、およぼす(及・覃)しく(布)「一布」○たはる「一傳」○ひく。○めぐる。禮、仲尼燕居「周」無「不」徧「○」くだる、くだす(下)○うつる、うつり行く。孟、公孫丑「德之」行「○」かはる。○かたよる。○しまりがなくなる(無・節制)禮、樂記「樂勝則」○はなる、はなつ(放)○ちる。○一離はさすらふ、さまよふ。又困苦する。又鳥の名、巢「○」はしる。○とる、えらぶ、もとむ。詩、周南「左右」之「○」しまながし、刑罰の「一罪」配「○」流刑に處す

る。周語「乃」主於歲「○」しなる。品法「品」○たぐひ、ともがら「名」「俗」「羽」「緇」○すぢ。○一求は國名。○琉球。○りう、りうぎ、特別の方式「山鹿」「遠州」○ながれ、子孫。又、其のままやめになること、立ちぎえ。又、質物が約束の期限を經過して質屋の所有となる。

【流】○たがひきくもや。舊唐書、劉泊傳「一」成彩「○」仙人の飲む美酒の名。抱朴子「石曼卿言到天上、仙人但以「一」一杯「一」我飲之、輒不「一」飢渴」

【流】○過ぎ行く日かけ。李白詩「逝川與「一」飄忽不相待」

【流】○水ながれる池。阮籍、東平賦「一」餘瀝、洋溢「一」

【流】瀕川水出、一人民。【流散】散らす。又、其の者。後漢書、虞翻傳「綏三聚荒餘、招還一」。【流産】胎兒が月滿たずして死んで生れる。○半産、小産。【流罪】罪によりて遠地にながす。冊府元龜「管内多一者子孫」。【流箠】ばらばらとふるあられ。賈至詩「日暮河上雲、蕭蕭若一」。○飛箠。【流矢】それや。司馬相如文「觸白刃、冒一」。○流箭。【流徙】人民がいくさなどのために他方にあちこちとつりまよふ。劉基詩「維時連年、道路多一」。【流事】あとかたもなきことがら。荀、致士「流言流説」。注「流者無根源一之謂」。【流漸】氷がとけて流れる。楚辭「一粉兮將一來下」。○流氷。【流失】水にながされてなくなる。【流入】○他國にまよふ。○莊、徐無鬼、越之、去、國旬月。○流刑に處せられし人。孟浩、然詩「江嶺作一」。【流唱】ひろくつたへとなへる。水經、注「役夫一」。【流觴曲水】陰曆三月三日に曲水に杯を流し、其の杯の己が前に來らぬ中に、詩を作る故事。王羲之、蘭亭集序「此地有崇山峻嶺、茂林脩竹、又有清流激湍、映帶左右、引以為流觴曲水」。【流出】ながれいづ。【流水】○ながれるみづ。詩、小雅「沔彼一、朝宗于海」。○物の速かなるに喩ふ。光陰如「一」。後漢書、馬皇后傳「車如一、馬如游龍」。【流水韻】音調の高妙なるをいふ。列、湯問「伯牙鼓琴、志在流水、鍾子期曰、善哉、洋洋兮、江河」。李白詩「愧非一、叨入一」。【流水不腐】常に運動する者は腐りせざるに喩ふ。呂覽「一、戶樞不蠹」。【流慧】飛ぶはきはばし。漢書、李尋傳「隕星一」。【流星】○よびほし。史、樂書「甘泉常有」。○古の寶劍の名、光が流星に似たるが故。古今注「吳有寶劍六、四曰一」。楊炯詩「赤土一劍」。【流星光底】ふり上げたる名刀の下。類、詩「一、逸長蛇」。【流逝】ながれゆく。詩、疏「如川之一」。【流瘠】ららしてやせおとる。又、其の者。唐書、白居易傳「乞盡免一」。【流世】ながれもる。陳師道文「一不時、盈溢千里」。【流説】うばさ、ねなしごと。呂覽「至治之世、其民不好一」。○浮説。【流歌】水の流れる如くむさぼりする。曲禮「毋放飯、毋一」。【流淡】あまねくうるほふ。崔暉、北巡、聖澤一、黎元被德。○流洽。【流宣】しきのべる。舊唐書、懿安皇后傳「一陰教、陰教は女の教」。【流淺】十分にあまりあり。宋史、樂志「遼求一厥寧、福祿一」。【流箭】それや。後漢書、劉表傳「孫堅爲一所中」。○流矢。【流涎】よだれをながす。深く羨む義。杜甫、飲中八仙歌「道逢一、羅衣」。【流祚】さいはひを廣く及ぼす。廣く及ぶさいはひ。唐書、高郢傳「延福一、永永無窮」。【流蘇】五彩の絲を雜へて旌旗又、幕につけるふき。張衡、東京賦「飛一之、駭殺一、晉書、衛恆傳、或縱肆阿那、若一懸羽、麗靡綿綿」。【流淒】ながれあつまる。白虎通「一、恩愛相一也」。【流俗】○世俗のならばし。禮、射義「不從一」。○世俗の人。成公綏、嘯賦「一未悟、獨超然而先覺」。○俗人。【流賊】此處彼處とわたり歩くぬすびと。明史「一傳あり」。○流寇。

六韜、太公曰、夫射、一諸侯、欺一侮、軍臣。【流年】過ぎ行くとしつき。杜甫詩「一、度」。○流光。【流波】美くしき目にてながしめに見る。宋玉賦「望余帷而延視兮、若一之將一」。【流瀉】わかれながれる。又、えだ、わかれ。張文宗、水詩「一表三靈長」。○支流、流儀。【流馬】諸葛孔明の發明せし馬の形せる輻重車。對志、諸葛亮傳「亮性長于巧思、損益連弩木牛一、皆出其意」。【流播】つたはりしく。中論「仁愛普被、惠澤一」。【流杯】さかづきをながす。曲水の宴にて流すさかづき。杜牧詩「且環流水一」。○流觴。【流輩】同じなま。北史、賀若敦傳「一其、皆爲三大將」。王禹偁詩「一多相許」。【流】一定の住居なくさまよふ。又、其の者。禮、射義「夫君臣習禮樂、而以一者、未三之有也」。漢書、食貨志「農人所一」。○亡命。【流芳】芳名を後世に残す。晉書、桓溫傳「既不能一、後世不」。○流名。【流放】流罪に處す。書經、傳「故」。○一之幽州。○流策。【流泊】さまよふ。陸游詩「一」。【流】之、蘭亭集序「此地有崇山峻嶺、茂林脩竹、又有清流激湍、映帶左右、引以為」。【流出】ながれいづ。【流水】○ながれるみづ。詩、小雅「沔彼一、朝宗于海」。○物の速かなるに喩ふ。光陰如「一」。後漢書、馬皇后傳「車如一、馬如游龍」。【流水韻】音調の高妙なるをいふ。列、湯問「伯牙鼓琴、志在流水、鍾子期曰、善哉、洋洋兮、江河」。李白詩「愧非一、叨入一」。【流水不腐】常に運動する者は腐りせざるに喩ふ。呂覽「一、戶樞不蠹」。【流慧】飛ぶはきはばし。漢書、李尋傳「隕星一」。【流星】○よびほし。史、樂書「甘泉常有」。○古の寶劍の名、光が流星に似たるが故。古今注「吳有寶劍六、四曰一」。楊炯詩「赤土一劍」。【流星光底】ふり上げたる名刀の下。類、詩「一、逸長蛇」。【流逝】ながれゆく。詩、疏「如川之一」。【流瘠】ららしてやせおとる。又、其の者。唐書、白居易傳「乞盡免一」。【流世】ながれもる。陳師道文「一不時、盈溢千里」。【流説】うばさ、ねなしごと。呂覽「至治之世、其民不好一」。○浮説。【流歌】水の流れる如くむさぼりする。曲禮「毋放飯、毋一」。【流淡】あまねくうるほふ。崔暉、北巡、聖澤一、黎元被德。○流洽。【流宣】しきのべる。舊唐書、懿安皇后傳「一陰教、陰教は女の教」。【流淺】十分にあまりあり。宋史、樂志「遼求一厥寧、福祿一」。【流箭】それや。後漢書、劉表傳「孫堅爲一所中」。○流矢。【流涎】よだれをながす。深く羨む義。杜甫、飲中八仙歌「道逢一、羅衣」。【流祚】さいはひを廣く及ぼす。廣く及ぶさいはひ。唐書、高郢傳「延福一、永永無窮」。【流蘇】五彩の絲を雜へて旌旗又、幕につけるふき。張衡、東京賦「飛一之、駭殺一、晉書、衛恆傳、或縱肆阿那、若一懸羽、麗靡綿綿」。【流淒】ながれあつまる。白虎通「一、恩愛相一也」。【流俗】○世俗のならばし。禮、射義「不從一」。○世俗の人。成公綏、嘯賦「一未悟、獨超然而先覺」。○俗人。【流賊】此處彼處とわたり歩くぬすびと。明史「一傳あり」。○流寇。

【海軟風】カキ。日中に海上より陸地の方に吹き来るかぜ。
 【海馬】ウマ。○たつのおとしこ、海産の小魚の一、其の頭馬に似、直立して游泳す。○にんぎょ、海獣の一、體長丈餘、灰青色にして背鱗なく、肉は食用とす。○備長魚。
 【海方】ウマ。海外のくに。隋書、樂章、樂弘三營土、聲被二一。
 【海防】ウマ。海岸の防備、敵艦の來寇を禦ぐ設備。
 【海防艦】ウマ。海防の任務にあたる軍艦、喫水淺く防禦力の強きもの。
 【海旁】ウマ。うみへ、傍は傍。史、天官書「一、聲氣象、樓臺二」海濱、海畔。
 【海堡】ウマ。海中に築きし砲臺。
 【海抜】ウマ。海面よりの高さ。
 【海畔】ウマ。うみぎし。書、禹貢傳「碣石一山」海濱、海畔。
 【海濱】ウマ。うみのほとり、うみへ。海邊、海旁、海畔。
 【海瀕】ウマ。うみへ、海水の涯。漢書、張遂傳「一、遐遠、不霽、聖化二」海濱、海隅。
 【海風】ウマ。うみかき吹き来るかぜ。李益詩「天山雪後一寒」
 【海物】ウマ。うみより産する物、海産物。書、禹貢、厥貢鹽絲、一惟錯。
 【海表】ウマ。海外の土地。書、立政「天下至于一、罔有不服二」海外。
 【海豹】ウマ。あざらし、北海に産する海獸の一、短小にして蹠蹄のある肢

を有し、毛は蒼黒にして光澤あり。
 【海邊】ウマ。海濱に同じ。
 【海鱧】ウマ。海魚の一、うなぎに似て背部は黒褐色。○海鰻鱺。
 【海味】ウマ。海より得る食物、即ち魚貝など。齊書、虞仲傳「會稽一、無不畢致二」
 【海綿】ウマ。海中に生ずる一種の下等動物、其の綿狀の骨格を精製して沐浴器等に用ふ。
 【海門】ウマ。海峡に同じ。
 【海容】ウマ。海の如く廣き心を以て罪をゆるす。○海涵、海函。
 【海羅】ウマ。のり。南越志「海藻、一名海苔、或曰一」
 【海老】ウマ。蝦。○國語、海老。
 【海老尾】ウマ。國語、海老尾。○味の棹の端の後方に曲れる部分の稱、形の似たるが故、えびを。○匙頭。
 【海里】ウマ。海上の里程、一緯の六十分の一、即ち我十六町五十九間四尺許、英語ノットの譯。○埋節。
 【海狸】ウマ。哺乳動物の一、歐羅巴及北米の河邊に生息す、足に蹠ありて游泳す。
 【海流】ウマ。海水が赤道より極へ(寒流)極より赤道へ(暖流)一定の方向を取りて流れるもの。○潮流。
 【海陸】ウマ。うみと、くがと。隋書、地理志「蘇州府、川澤沃衍、有二一之鏡」
 【海立】ウマ。なみだつ。蘇軾詩「天外黑

風吹一、浙東飛雨過一江來」
 【海靈】ウマ。うみの神。晉靈光殿賦「雜物奇怪、山神一、寫載其狀、託之丹青」
 【海路】ウマ。うみち。五代史、吳越世家「由一、入三貢京師」
 【海體】ウマ。あじか、海獸の一、形海豹に似、體長二間に至る。本草綱目「一、出海島中、入水不濡」海類。
 【海樓】ウマ。海に臨める樓屋。王昌齡詩「南越歸人夢一、李白、明堂賦「海蓬壺之一、吞岱宗之日觀」
 【海王星】ウマ。惑星中、太陽より最も遠きもの、百六十八年九箇月にて太陽を一周す。
 【海關】ウマ。海に臨める樓屋。王昌齡詩「南越歸人夢一、李白、明堂賦「海蓬壺之一、吞岱宗之日觀」
 【海關】ウマ。海に臨める樓屋。王昌齡詩「南越歸人夢一、李白、明堂賦「海蓬壺之一、吞岱宗之日觀」
 【海關】ウマ。海に臨める樓屋。王昌齡詩「南越歸人夢一、李白、明堂賦「海蓬壺之一、吞岱宗之日觀」

【浩唱】ウマ。○大水の貌。書、舜典「懷山襄陵、一滔天、○廣大の貌。中唐「一其天」
 【浩汗】ウマ。ひろく大いなり、汗は廣。晉書、孫楚傳「三江五湖、一無涯」浩汗。
 【浩洋】ウマ。○廣大なる貌。○浩洋。○書物の多き貌。文心雕龍、事類「載籍一」
 【浩氣】ウマ。浩然之氣の略。楊繼盛詩「一歸太虛、丹心照千古」
 【浩曠】ウマ。大いにして廣し。沈佺期詩「鬱然懷一君子、一將如何」
 【浩劫】ウマ。○長き世。曹唐詩「甲子初開一長劫、○困人開の大いなる災禍、佛家にて一劫中を成住壞空の四階級に分つて以て其の一部の破壞の義を取る。
 【浩唱】ウマ。大聲にてうたふ。陸龜蒙詩「一義皇言」浩唱。
 【浩湯】ウマ。水の廣く流れる貌。范仲淹、岳陽樓記「浩浩湯湯、橫無際涯」
 【浩壤】ウマ。ひろく土地。白居易文「宜一、村一」
 【浩穰】ウマ。大いにしてしげし、穰は盛多、人民の多きをいふ。漢書、張敞傳「長安中一、於三輔一尤爲劇」
 【浩然】ウマ。○水の盛んに流れる形容。○轉じて盛大流行の貌、次修參看。

○歸り去らんとする志の盛なるに喩ふ。孟、公孫丑「夫出畫而王不三予追、予然後一有歸志」
 【浩然之氣】ウマ。浩然は盛大流行の貌。天地間に流行せる正しき元氣。孟、公孫丑「我善養一吾一、敢問何謂一、曰、難言也、其爲氣也、至大至剛、以直養而無害、則塞二于天地之間」
 【浩蕩】ウマ。○廣大なる貌。沈約賦「何斯願之一」志のほしいままなる貌。楚辭、哀時命「志一而傷懷」
 【浩闊】ウマ。甚ださわがし。夢華錄「萬街千巷、盡皆繁盛一」
 【浩歎】ウマ。大いになげく。張九齡詩「一楊朱子、徒然泣路岐二」長歎。
 【浩洞】ウマ。廣くしてうつろなり。漢武內傳「九天一、太上羅靈」
 【浩茫】ウマ。水の廣き貌。水經、注「登レ高遠望、觀二巨海之一」浩洋。
 【浩博】ウマ。ひろし。宋史、邵雍傳「汪洋一」
 【浩繁】ウマ。大いにしげし。舊唐書、齊幹傳「舟車輻輳、人庶一」
 【浩淼】ウマ。水の廣き貌。森は大水。陳山賦、七夕賦「浮三湘之一、湖二七澤之滌滌」森森。
 【浩渺】ウマ。大いにしてはるかなる貌。渺は廣遠。宋之問詩「一浸雲根一、煙嵐出三遠村二」浩洋、浩渺。
 【浩渺】ウマ。廣く遙かなる貌。陳陶詩

「十洲隔二八海、一不可期」
 【浩漫】ウマ。大いにして廣し。李白詩「客心不自得、一將二何之」○衆多。新論「三軍一、則立三表號」
 【浩洋】ウマ。水の廣大なる貌。淮南子「水一而不息二」浩汗、浩蕩、浩淼、浩渺、浩濶、浩茫。
 【浩汗】ウマ。ひろくたよふ。阮籍賦「漫一而未靜二」浩洋。
 【浩濶】ウマ。水の廣大なる貌。漢は洋。傅亮文「淵流一、莫測其端二」浩洋。
 【浩瀟】ウマ。しげきつゆ。孟雲卿詩「扣船不能渡、一清二衣襟」
 【浣】ウマ。○あらふ、垢衣を濯ふ。○十(濼)○十日の稱、古、十日毎に官吏に休暇を賜ひ、沐浴せしめたるに由る「上」
 【浣胃】ウマ。あぶくろをあらひ清む。劉基文「一浣瀟、絶二去病根」
 【浣花溪】ウマ。唐の杜甫の草堂の在る所。老學菴筆記「杜少陵在成都、一有二三草堂、一在萬里橋西、一在北」

【浣花日】ウマ。成都の俗、毎年四月十九日、杜甫の浣花溪の草堂にて宴集す、此の日を「一」と名づく(老學菴筆記)
 【浣草】ウマ。天門冬の異名(抱朴子)
 【浣雪】ウマ。すすぐ。唐書、王士真傳「數表請赦、乃詔、一盡以三故地一、早之」
 【浣染】ウマ。あらひそめる。唐書、食貨志「代宗性儉約、身所御衣、必一、至再三」
 【浣腸】ウマ。はらわたを洗ふ。史、扁鵲傳「俞附治病前、一胃、漱二滌五藏」
 【浣滌】ウマ。あらひすすぐ。史、萬石君傳「身自一」
 【浣練】ウマ。あらひぬる。本草「可三以一衣服」

【涇】ウマ。○ケイ。○ケイ。○とほる(通)莊、秋水「一流之大」○川の名、甘肅省に發源し、陝西省に入りて渭水と合す。○直なる流。
 【涇渭分】ウマ。涇渭は共に川の名、今の陝西省に在り、涇水は濁り渭水は清む、故に清濁の區別の明かに定まるに喩ふ。詩、邶風「涇以渭濁、混其流」蘇軾詩「俗裏光塵合、胸中一」
 【涇水】ウマ。川の名、關中八川の一。禹貢「涇屬渭汭」疏「一出安定涇陽縣西岸頭山、東南至涇陽縣入渭」
 【涇】ウマ。○小き流れ。○しづく(滴)○細小の義に借り用ふ「一滴」
 【涇】ウマ。○えらぶ(擇)○のぞく(除)○いさぎよし(潔)はらひ清める。
 【涇埃】ウマ。しづくと、ちりと。微少の義。杜甫詩「未有一三、答聖朝」
 【涇】ウマ。前條に同じ。疑は埃。王融、北伐疏「思策一鉛、樂陳一」
 【涇毫】ウマ。いささか。虞茂詩「從然雖一、觀海一何以效二」
 【涇吉日】ウマ。吉日をえらぶ。左思、魏都賦「涇吉日、一沙中壇」
 【涇潔】ウマ。清くいさぎよし。元史、祭祀志「殊非一之道」
 【涇】ウマ。清く、李白酒樓記「以二聰明一移于月露風雲、使一」
 【涇】ウマ。小流の貌、ちよると流れる水。家語、親同「一不涇、終爲三江河」
 【涇人】ウマ。○宮中の掃除を主り、又取次をする人、謂者(取次の者)の類。史、陳勝世家「故一」
 【涇】ウマ。○官をいふ。國語「乃見其一一」中涓。

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【深】シシ 〇シシ 〇シシ 〇シシ

【淋】^リ 水の流れこむいけ。王子年拾遺記「穿^リ淋^リ廣干歩^リ」
 【淋】^リ 高等動物が組織間に有する無色透明の液、淋巴管により乳糜と合して心臓に入る、其管の會合する所を淋巴腺といふ。英語の音譯。|| 明汁。

【淋瀝】^リ みだれる貌。韓愈詩「^リ身上衣、顛倒兼下字」
 【淋瀝】^リ したたる貌。楊億詩「^リ清曉露^リ淋瀝」
 【淋瀝】^リ 〇長き貌。楚辭「哀時命」
 【淋瀝】^リ 〇大なる貌。揚雄「^リ羽獵賦」
 【淋瀝】^リ 水のしたたる貌。曹植賦「^リ噴^リ雲霧之噴噴^リ、^リ騰^リ長空之^リ」

【涼】^リ 〇うすし(薄)「^リ德」^リ〇うすし(薄寒)「^リ納」^リ〇かなしむ。〇風にあたらしむる。〇州の名、今の甘肅省。〇國名、東晉の時、先後して甘肅の地に分據せし者、國號を^リといふ。前

【涼】^リ 〇うすし(薄)「^リ德」^リ〇うすし(薄寒)「^リ納」^リ〇かなしむ。〇風にあたらしむる。〇州の名、今の甘肅省。〇國名、東晉の時、先後して甘肅の地に分據せし者、國號を^リといふ。前

後、北、西、南、之を五^リといふ。〇たすく(佐)〇まこと(信)〇涼。〇すすし、清らかにしてすすし「^リ眼元^リ」〇すすみ。すすむ(納涼)「^リ夕^リ」
 【涼】^リ 〇すすし(清)「^リ涼」
 【涼】^リ 〇すすし(清)「^リ涼」
 【涼】^リ 〇すすし(清)「^リ涼」

【涼】^リ 〇すすし(清)「^リ涼」
 【涼】^リ 〇すすし(清)「^リ涼」
 【涼】^リ 〇すすし(清)「^リ涼」

【涼】^リ 〇すすし(清)「^リ涼」
 【涼】^リ 〇すすし(清)「^リ涼」
 【涼】^リ 〇すすし(清)「^リ涼」

【涼】^リ 〇すすし(清)「^リ涼」
 【涼】^リ 〇すすし(清)「^リ涼」
 【涼】^リ 〇すすし(清)「^リ涼」

【凌】^リ 〇はす(馳)のる(乘)〇〇(歴)木華、海賦「汎海^リ山^リ〇〇をのく、おそる(懼)」

【淚】^リ 〇なみだ、眼から出る液「^リ涕^リ」
 【淚】^リ 〇なみだ、眼から出る液「^リ涕^リ」
 【淚】^リ 〇なみだ、眼から出る液「^リ涕^リ」

【淚】^リ 〇なみだ、眼から出る液「^リ涕^リ」
 【淚】^リ 〇なみだ、眼から出る液「^リ涕^リ」
 【淚】^リ 〇なみだ、眼から出る液「^リ涕^リ」

【淚】^リ 〇なみだ、眼から出る液「^リ涕^リ」
 【淚】^リ 〇なみだ、眼から出る液「^リ涕^リ」
 【淚】^リ 〇なみだ、眼から出る液「^リ涕^リ」

【渌】^リ 〇す。〇澆。〇したる水、こしたる酒。〇水きよし。張衡、東京賦「^リ水澆澆^リ」

【渌】^リ 〇す。〇澆。〇したる水、こしたる酒。〇水きよし。張衡、東京賦「^リ水澆澆^リ」

【渌】^リ 〇す。〇澆。〇したる水、こしたる酒。〇水きよし。張衡、東京賦「^リ水澆澆^リ」

【渌】^リ 〇す。〇澆。〇したる水、こしたる酒。〇水きよし。張衡、東京賦「^リ水澆澆^リ」

【涓】^リ 〇うすし(薄)「^リ德」^リ〇うすし(薄寒)「^リ納」^リ〇かなしむ。〇風にあたらしむる。〇州の名、今の甘肅省。〇國名、東晉の時、先後して甘肅の地に分據せし者、國號を^リといふ。前

【涓】^リ 〇うすし(薄)「^リ德」^リ〇うすし(薄寒)「^リ納」^リ〇かなしむ。〇風にあたらしむる。〇州の名、今の甘肅省。〇國名、東晉の時、先後して甘肅の地に分據せし者、國號を^リといふ。前

【游】^リ 〇およぐ(泳)水に浮びゆく、およぎ。〇ゆ(行)あそぶ、あそび。〇遊。〇何事もせずぶらぶらと遊ぶ「^リ民^リ」^リ「^リ食^リ」^リ「^リ手^リ」
 【游】^リ 〇およぐ(泳)水に浮びゆく、およぎ。〇ゆ(行)あそぶ、あそび。〇遊。〇何事もせずぶらぶらと遊ぶ「^リ民^リ」^リ「^リ食^リ」^リ「^リ手^リ」

【游】^リ 〇およぐ(泳)水に浮びゆく、およぎ。〇ゆ(行)あそぶ、あそび。〇遊。〇何事もせずぶらぶらと遊ぶ「^リ民^リ」^リ「^リ食^リ」^リ「^リ手^リ」

滌

○みづあつまる(水聚)○はやし(急)○いきどほりて顔色のむじとしたる貌。

滌

○川の名、安徽省合淝縣の北より出で和・二州を経て、江蘇省に至り揚子江に入る。

滌

○あらふ、すすぐ(洗)「洗」

滌

【滌瑕】あ、き點を去る。瑕は疵。舊唐書、昭宗紀「滌滌垢、咸與維新」

滌

【滌】おぼる(水死)○しづむ(沈没)○たへず。○おぼらす、物事にふけりて心を奪はれる

滌

【滌】おぼる(水死)○しづむ(沈没)○たへず。○おぼらす、物事にふけりて心を奪はれる

滌

救ひあげる。野析子「滌滌之石、すすます甚だしくする喻。

滌

○漢代の夷の國、今の雲南省地方、故に雲南省を二に一省といふ。○一は盛んなる貌。

滌

○春秋戰國時代の國名、今の山東省兗州府一縣の地。○みづがわきあがる、騰と通ず。○口を張りて説く。

滌

○水又は涙の盛んに流れる貌。○水の流れる聲。○潮一は風の物を撃つ聲。○一洋はゆたか、ひろし(饒・廣)○水の聲。○洋。

滌

○雨の盛んに降る貌。詩「滌滌」○雨の盛んに降る貌。詩「滌滌」○雨の盛んに降る貌。詩「滌滌」

滌

○水がさかんなり。○安く流れる貌。○一然は閑暇ある貌。○固とける、とかす、物質が水にまじりて融解する。固體が液狀に化する。鎔に通用す。

溟

○小雨がふりてくらし「溟溟」○くらし、遠く又深くして薄暗し。○水の色黒き海。又、海の稱。○冥。○水が激しう動く貌。

溟

【溟】溟、らし。又、元氣の未だ分れざる貌。論衡、談天「溟溟」

滅

○ほろぶ、ほろぼす「一亡」○珍息「消」○つく(盡)なくなる。○たゆ、たつ(絶)○しづむ(没)○死する「寂」爲樂

滅

【滅】おぼる(水死)○しづむ(沈没)○たへず。○おぼらす、物事にふけりて心を奪はれる

滅

【滅】おぼる(水死)○しづむ(沈没)○たへず。○おぼらす、物事にふけりて心を奪はれる

溟

【溟】おぼる(水死)○しづむ(沈没)○たへず。○おぼらす、物事にふけりて心を奪はれる

溟

○大いなり。○ひろし(廣)あまねし「宏」○周「普」○し(布)敷、禮、祭義「之」之而横于四海

溟

○大いなり。○ひろし(廣)あまねし「宏」○周「普」○し(布)敷、禮、祭義「之」之而横于四海

溟

○大いなり。○ひろし(廣)あまねし「宏」○周「普」○し(布)敷、禮、祭義「之」之而横于四海

溟

○大いなり。○ひろし(廣)あまねし「宏」○周「普」○し(布)敷、禮、祭義「之」之而横于四海

溟

○大いなり。○ひろし(廣)あまねし「宏」○周「普」○し(布)敷、禮、祭義「之」之而横于四海

溟

○大いなり。○ひろし(廣)あまねし「宏」○周「普」○し(布)敷、禮、祭義「之」之而横于四海

劉孝綽詩「釣舟盡采鷓」一服「冰純」

【漁舟】すなごりのふね。杜荀鶴「秋宿江驛」詩「火影寒歸浦」

【漁人】すなごりを業とする人。杜甫「漁者」詩「列仙傳」唐高宗時

【漁者】れよし。列仙傳「唐高宗時」

【漁唱】漁夫のうたふ歌。陸游詩「空濠過釣船」

【漁取】あさりとする。宋史「朱熹孫傳」

【漁色】女色をむさぼる。禮「坊記」

【漁食】人の物をうばひとりて食ふ。漢書「何進傳」

【漁征】水産物の税。周禮「掌一入于王府」

【漁樵】すなごりする人と、きこりと。王維詩「平明閣看掃花開」

【漁笠】魚を捕へるふせご。陸龜蒙詩「處處倚鰲魚」

【漁吏】すなごりするおやち。陸龜蒙詩「盡日水濱吟」

【漁父】漁翁。蘇詩「魚を捕ふるあみ。蘇詩註」

【背風開藥籠】向月展「一」

【漁村】れよしの住めるむら。鄭浩詩「展江浦清空」

【漁寮】すなごりする如くうばひとる。漢書「景帝紀」

【漁艇】漁舟に同じ。杜甫詩「空濠」

【漁釣】魚をつる。史「齊世家」

【漁笛】すなごりする人の吹くふえ。杜牧詩「牛歌」

【漁歌】漁はすなごり、歌は禽獸をかる。曹植「庖犧贊」

【漁夫】れよし、すなごりを業とする者。漢書「漁父」

【漁父之利】兩者互に争ふ間に、他の第三者が其の利をよこりする。鶴鶴が蚌の肉を食はんとして、蚌を夾まれ、互に相争ふ間に、兩者共に漁父に捕はれたる故事。戰國策「鷸蚌之争」

【漁陽】地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁鼓】鼓を吹く。唐の安祿山が叛旗を翻して攻め来るをいふ。漁陽は地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁父之利】兩者互に争ふ間に、他の第三者が其の利をよこりする。鶴鶴が蚌の肉を食はんとして、蚌を夾まれ、互に相争ふ間に、兩者共に漁父に捕はれたる故事。戰國策「鷸蚌之争」

【漁陽】地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁鼓】鼓を吹く。唐の安祿山が叛旗を翻して攻め来るをいふ。漁陽は地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁父之利】兩者互に争ふ間に、他の第三者が其の利をよこりする。鶴鶴が蚌の肉を食はんとして、蚌を夾まれ、互に相争ふ間に、兩者共に漁父に捕はれたる故事。戰國策「鷸蚌之争」

【漁陽】地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁鼓】鼓を吹く。唐の安祿山が叛旗を翻して攻め来るをいふ。漁陽は地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁父之利】兩者互に争ふ間に、他の第三者が其の利をよこりする。鶴鶴が蚌の肉を食はんとして、蚌を夾まれ、互に相争ふ間に、兩者共に漁父に捕はれたる故事。戰國策「鷸蚌之争」

【漁陽】地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁鼓】鼓を吹く。唐の安祿山が叛旗を翻して攻め来るをいふ。漁陽は地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁父之利】兩者互に争ふ間に、他の第三者が其の利をよこりする。鶴鶴が蚌の肉を食はんとして、蚌を夾まれ、互に相争ふ間に、兩者共に漁父に捕はれたる故事。戰國策「鷸蚌之争」

【漁陽】地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁鼓】鼓を吹く。唐の安祿山が叛旗を翻して攻め来るをいふ。漁陽は地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁父之利】兩者互に争ふ間に、他の第三者が其の利をよこりする。鶴鶴が蚌の肉を食はんとして、蚌を夾まれ、互に相争ふ間に、兩者共に漁父に捕はれたる故事。戰國策「鷸蚌之争」

【漁陽】地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁鼓】鼓を吹く。唐の安祿山が叛旗を翻して攻め来るをいふ。漁陽は地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁父之利】兩者互に争ふ間に、他の第三者が其の利をよこりする。鶴鶴が蚌の肉を食はんとして、蚌を夾まれ、互に相争ふ間に、兩者共に漁父に捕はれたる故事。戰國策「鷸蚌之争」

【漁陽】地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁鼓】鼓を吹く。唐の安祿山が叛旗を翻して攻め来るをいふ。漁陽は地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁父之利】兩者互に争ふ間に、他の第三者が其の利をよこりする。鶴鶴が蚌の肉を食はんとして、蚌を夾まれ、互に相争ふ間に、兩者共に漁父に捕はれたる故事。戰國策「鷸蚌之争」

【漁陽】地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁鼓】鼓を吹く。唐の安祿山が叛旗を翻して攻め来るをいふ。漁陽は地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁父之利】兩者互に争ふ間に、他の第三者が其の利をよこりする。鶴鶴が蚌の肉を食はんとして、蚌を夾まれ、互に相争ふ間に、兩者共に漁父に捕はれたる故事。戰國策「鷸蚌之争」

【漁陽】地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁鼓】鼓を吹く。唐の安祿山が叛旗を翻して攻め来るをいふ。漁陽は地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁父之利】兩者互に争ふ間に、他の第三者が其の利をよこりする。鶴鶴が蚌の肉を食はんとして、蚌を夾まれ、互に相争ふ間に、兩者共に漁父に捕はれたる故事。戰國策「鷸蚌之争」

【漁陽】地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁鼓】鼓を吹く。唐の安祿山が叛旗を翻して攻め来るをいふ。漁陽は地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁父之利】兩者互に争ふ間に、他の第三者が其の利をよこりする。鶴鶴が蚌の肉を食はんとして、蚌を夾まれ、互に相争ふ間に、兩者共に漁父に捕はれたる故事。戰國策「鷸蚌之争」

【漁陽】地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漁鼓】鼓を吹く。唐の安祿山が叛旗を翻して攻め来るをいふ。漁陽は地名、秦の郡名、今の京兆の東部。白居易「長恨歌」

【漚】もの運ぶふね。陳高詩「下邑供軍食」

【漚】はこぶ。史「平準書」

【漚】山東粟、以給中都官

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漚】

【漠然】ぼんやりとして明かならざる貌。淮南子「聖人内修其本、而不外飾其末、無爲而無不爲也」

【漠南】大漠の南、即ち内蒙古、次條參看。

【漠北】戈壁、沙漠の北方の地。|| 幕北・外蒙古。

【漠漠】○ひろびろとしてはてなき貌。王維詩「水田飛白鷺」○布き散る貌。謝朓詩「生烟紛」○暗き貌。杜甫詩「千戈塵」○深に合ふ貌。○聲なき貌。荀解蔽「聽一而以為一、聞一而以為一」

【漫】○バン・マン 漫字

○ひろし、大水の際涯なき貌。嚴維詩「柳塘春水」○はびこる。○やぶる(敗)○あまねし(徧)○ほしいまま、さまさま(放)しまりなし「散」○汗「○たひらか。○ちる(散)○ぬる。○漫。○とほし。○は雲の色美しくしき貌。又、長く遠き貌。○いつはり(欺)○みだりに、そぞろ、あてもなく。○水の廣大なる貌。○みつ(満)蘇軾詩「桃李」山總粗俗「○は夜の長き貌。又、たひら

か、とほし。

【漫遊】漫遊、遊の別は妄(女部三畫)の條を見よ

【漫汗】○折にふれてそぞろにそそる。○鳥の名、へらさき(驚)

【漫語】○漫言に同じ。梁武帝文「不得三空作一」

【漫】○漫言に同じ。梁武帝文「不得三空作一」

【漫】○漫言に同じ。梁武帝文「不得三空作一」

【漫】○漫言に同じ。梁武帝文「不得三空作一」

【漫】○漫言に同じ。梁武帝文「不得三空作一」

【漫】○漫言に同じ。梁武帝文「不得三空作一」

【漫】○漫言に同じ。梁武帝文「不得三空作一」

【漫】○漫言に同じ。梁武帝文「不得三空作一」

【漫】○漫言に同じ。梁武帝文「不得三空作一」

【漫】○漫言に同じ。梁武帝文「不得三空作一」

【漫】○漫言に同じ。梁武帝文「不得三空作一」

【漫】○漫言に同じ。梁武帝文「不得三空作一」

【漫】○漫言に同じ。梁武帝文「不得三空作一」

【漫】○漫言に同じ。梁武帝文「不得三空作一」

【漫】○漫言に同じ。梁武帝文「不得三空作一」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【引】○引。李將軍傳「廣乃一引」

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【滿】○灰白色を帯びたる一種の金屬、質硬くして、英語の音譯。

【瀟目】^ハ○目いげいにみちる。沈約、與二約法師二書、音容一、言笑在二耳一。○みわたすかぎり。王維詩「一、望二雲山一」目。

【瀟門】^ハ門にみつ。漢書、朱博傳、九卿賓客一、秋二仕宦一者、應舉一。

【瀟籃】^ハかごにみつ。宋徽宗詩、桑葉青青貯一。

【瀟瀟】^ハ欺き誣ひる。漢書、谷永傳「一、誣二天一」。

【瀟了】^ハ所定の事柄が結了する。

【瀟路】^ハみち一、つばい。東京夢華錄「五陵年少一、一、行歌」。

【漉】^{ヒツ} 尤

水の流れる貌。

【漉】^{ヒツ} 質

○わく。泉のわき出る貌。一。○一弗は盛んなる貌。一。

【漂】^ハ 質

○ただよふ。さまよふ。ながれうかぶ。【淨】^ハ「流」^ハ「浮」^ハ書、武成「血流一、杵」^ハ「うご」^ハうごかす。【動】^ハ「漉」^ハはさむし。【寒】^ハ又、すずし。【涼】^ハ○ひるがへる。ひるがへす。【飄】^ハ○一は高く飛ぶ貌。○一然は高く

る。○かろし。うすし。【薄】^ハ「澆」^ハ「醜」^ハ。○淋^ハは雨の聲。又、したたる貌。

【膠】^ハ 質

○清く深し。○流れる。○寂一は高く遠き貌。○水清き貌。○劉。○一然は變化する貌。○莊、知北遊「油然一然」。

【漉】^ハ 質

○さざなみ(小波、細波)風、水上を行きて文を成す。一。【猗】^ハ「微」^ハ。○さめさめと涙を垂れる貌。

【漉】^ハ 質

○さざなみ(小波、細波)風、水上を行きて文を成す。一。【猗】^ハ「微」^ハ。○さめさめと涙を垂れる貌。

【漏】^ハ 質

○もる。もらす(泄)水がもれる。○秘密の事が世間に知れる。

遠き貌。○輕き貌。○一疽ハはできもの。一瘰癧。○しのぐ(凌駕)○さらす。水中にて絮を撃ちて白くす。一。白史、淮陰侯傳「竟一數十日」。

【漂】^ハ 質

○ただよはしうかす。ただよひうご。詩經「風雨所一」。

【漂】^ハ 質

○ただよはしうかす。ただよひうご。詩經「風雨所一」。

様。又向二江村二送二歲華一。一。漂泊。【漂著】^ハただよひて岸につく。

【漂鳥】^ハ食物をたづねて居所をかへる鳥。鶯、啄木鳥の類。

【漂白】^ハ水又は薬品などにてさらして白くす。

【漂白粉】^ハさらしこ、石灰と鹽素にて造る。植物性の物の色ぬきに用ふ。

【漂泊】^ハ水にただよふ。所定めずさすらふ。義、庚信賦「下亭一、高橋飄旅」杜甫詩「即今一、干戈際」。

【漂】^ハ 質

○ただよひ沈む。史、四門豹傳「水來一」。

【漉】^ハ 質

○のせき。○水の激して撃つ聲。

【漉】^ハ 質

○ただよふ(漂流)ただよはす。水の揺動する貌。【搖】^ハ「蕩」^ハ。○ながし(長)○川の名、陝西省に在り、漢水の源。

【漉】^ハ 質

○ただよふ。王維詩「沙灣一、一、新粉、綠野荒、旂幟二色」。

【漉】^ハ 質

○ただよふ。張籍詩「一、南湖水一、一、汎汎。○水の動く貌。温庭筠詩「花風一、一、吹二細光一」。

る。○わすれる(遺忘)○手ぬかり。【疎】^ハ「遺」^ハ。○室の西北隅、奥まりてくらき處。中庸「尚不、愧、子屋一」○みづどけい(水時計)底にあのある壺にもりしたる矢をたて、底より水のもれ出る度を示さしめて時刻を計るもの。一。刻。夜。○あな(穴)すき(隙)○病名「痔」。

【漉】^ハ 質

○雨のもるやぶれや。荷、備效「彼大儒者雖一隱二於窮閭一、一無置錫之地、而王公不能一與之爭」。

【漉】^ハ 質

○水もれてくづれやぶる。班固、突冒、隄防周起、障塞一、有似三夏后治水之勢一。

【漉】^ハ 質

○戸籍にもれたる家。通典「魏道武詔探二諸一、一、令二輸二輪一」。

【漉】^ハ 質

○みづどけいの水を受けるつぼ。蘇軾詩「夜長耿耿添一」。

【漉】^ハ 質

○時刻を報するつづみ。唐書、百官志「凡夜漏盡、擊一、一、而開」。

【漉】^ハ 質

○水時計。續漢書「孔壹爲一、漏、浮筒爲一、刻、下、漏、數、刻、以考二中星昏明星一焉」劉長卿詩「青瑣幽深一、一、長」。

【漉】^ハ 質

○酒のもる杯。大酒の人を稱す。洛陽伽藍記「京師士子見三蕭一、一、飲一、斗、號爲一、一」。

【漉】^ハ 質

○もれらしなふ。後漢書、律曆志「太初效驗、無所一、一」。

【漉】^ハ 質

○水時計のみづ。李白詩「銀箭金壺一、一、多」。

【漉】^ハ 質

○水時計の聲。杜甫詩「五夜一、一、催二曉箭一」。

【漉】^ハ 質

○もれる。もらす。易經、疏「若其不密而一、一、漉」。

【漉】^ハ 質

○前條に同じ。

【漉】^ハ 質

○水のもるふね。吳子「其善將者、如下坐一、一、之中、伏、機、屋之下、使二智者不及一、謀、勇者不及一、一、」。

【漉】^ハ 質

○水時計の壺の中に立てたる目盛り。周禮、疏「漏之箭、晝夜共百刻」。

【漉】^ハ 質

○もれおちる。南史、吳喜傳「一、見即寫、無所一、一」。

【漉】^ハ 質

○雨の多きをいふ。華陽國志「梓柯郡上當二天井一、故多三雨潦、今諺云、天無三三日晴、又目之爲一、一」。

【漉】^ハ 質

○水時計の水が滴り落ちる。辛棄疾詩「莫向二樓頭一、聽一、一」。

【漉】^ハ 質

○香油などを徳利などに入れるに用ふる牽牛花状の具。じやうご。三才圖會「一、釣升皆出二入、備伯一之器、備伯は酒の異名」。

【漉】^ハ 質

○時刻の知らせに撃つばんき。李賀詩「七星挂、城開一、一」。

【漉】^ハ 質

○ただよふ。露顯する。後漢書、蔡邕傳「事遂一、一、漉」。

【漉】^ハ 質

○したむ。こす(漉)○つくす(錫)○漉紙をすく。抄。

【漉】^ハ 質

○くぼむ。くぼみ(窟)○牛の蹄の跡のたまり水。

【漉】^ハ 質

○造(水部七畫)に同じ。

【漉】^ハ 質

○洗滌。

【漉】^ハ 質

○たにみづ。たにがは「幽」^ハ「溪」^ハ。山と山とが水を夾む。○川の名、河南渾池縣に出で洛水に入る。

【漉】^ハ 質

○たに川のくま。范曄詩「白日滿一、一」。

【漉】^ハ 質

○たにがは。蘇軾、虎丘寺詩「陰風生一、一、古木響一、一」。

【漉】^ハ 質

○たにが俗士を棲ましめたるをばづ。孔稚圭、北山移文「林壑」。

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

【澌】シ 又澌に作る 【澌】シ 又澌に作る

○水部 (十三畫) 澁・澁・澁・澁・澁

澁

○水の多き貌。○けがれる「汗」に「澁」を通ず。○汪「澁」は水の深く廣き貌。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。

澁

○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。

澁

○皮膚澁刷不澁。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。

澁

○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。

澁

○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。

澁

○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。

澁

○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。

澁

○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。

○水部 (十三畫) 澁・澁・澁・澁・澁

澁

○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。

澁

○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。

澁

○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。

澁

○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。○澁澁は雷の音の如し。